

新宿経済研究所

*Shinjuku Economic Research Institute*

---

# 金融規制動向 2016年7月版

---

新宿経済研究所 代表社員社長 岡本 修  
[okamoto@shinjuku-keizai.com](mailto:okamoto@shinjuku-keizai.com)

## ＜目次＞

|                           |           |                               |           |
|---------------------------|-----------|-------------------------------|-----------|
| ＜【重要】当資料のご利用にあたって＞        | 3         | (4) BCBS文書                    | 26        |
| <b>1</b> <b>バーゼル規制の概要</b> | <b>4</b>  | <b>5</b> <b>マーケット・リスク</b>     | <b>27</b> |
| (1) バーゼル規制の沿革             | 4         | (1) 現行の取扱い                    | 27        |
| ① 金融機能と規制の必要性             | 4         | ① 金融庁・銀行告示の条文構造               | 27        |
| ② バーゼルⅢへの経緯と最近の論点         | 4         | ② マーケット・リスク相当額不算入の特例          | 28        |
| (2) 日本国内の規制上の枠組み          | 6         | ③ マーケット・リスク相当額の算出対象           | 28        |
| (3) 現在のバーゼル規制の枠組み         | 7         | (2) 最終規則の公表                   | 29        |
| ① バーゼルⅡの「3本柱」             | 7         | ① GHOSプレス・リリース                | 29        |
| ② 第1の柱「自己資本比率規制」の沿革       | 7         | ② BCBSによる最終規則の公表              | 30        |
| ③ バーゼルⅢ規制と最低自己資本比率規制      | 8         | コラム：一定金額未達の除外規定               | 31        |
| ④ 第2の柱                    | 9         | (3) 最終規則の概要                   | 32        |
| (4) バーゼル規制の変革             | 10        | ① 内部モデル方式（IMA）の見直し            | 32        |
| ① 規制見直しの全体像               | 10        | ② 標準的方式（SA）                   | 33        |
| ② 金融規制の最近の論点              | 11        | ③ バンキング勘定とトレーディング勘定の境界        | 34        |
| <b>2</b> <b>標準的手法の見直し</b> | <b>12</b> | ④ トレーディング勘定の構成                | 34        |
| (1) 標準的手法（SA）とは           | 12        | ⑤ トレーディング勘定に含まれるもの            | 35        |
| (2) SA見直しの位置付け            | 13        | ⑥ トレーディング勘定から除外される項目          | 36        |
| ① 第一次市中協議文書の概要            | 13        | ⑦ 「トレーディング勘定」のその他の留意点         | 36        |
| ② 第二次市中協議文書の概要            | 14        | コラム：IFRSとトレーディング規制            | 37        |
| (3) 銀行・法人向けエクスポージャー       | 15        | <b>6</b> <b>米国「ボルカー・ルール」</b>  | <b>38</b> |
| ① 第一次市中協議文書の修正            | 15        | (1) ボルカー・ルールの成立               | 38        |
| ② 銀行向けエクスポージャーの手続一覧       | 15        | ① ドッド・フランク法                   | 38        |
| (4) 付属文書                  | 17        | ② 米連邦規則の共通ルール                 | 39        |
| ① Annex 1 に示されたりスク・ウェイト表  | 17        | ③ その他の重要な公表物                  | 40        |
| ② デュー・デリジェンスをいかに実施するか     | 17        | ④ 適用期日                        | 40        |
| <b>3</b> <b>IRRBB</b>     | <b>18</b> | (2) ファンド投資規制                  | 41        |
| (1) IRRBB規則の公表            | 18        | ① 規則の骨子（FRB編）                 | 41        |
| ① 位置付け：「第2の柱」を維持          | 18        | ② 銀行事業体（Banking Entity）       | 42        |
| ② 全体図                     | 19        | ③ 対象ファンド（カバード・ファンド）           | 42        |
| ③ 略語集                     | 19        | ④ 例外規定                        | 43        |
| (2) IRRBB規則の概要            | 20        | ⑤ 外国公募投信                      | 44        |
| ① IRRBBとCSRBB             | 20        | コラム：「リテール投資家」について             | 45        |
| ② EVEベースとNIIベース           | 20        | ⑥ SOTUS要件による例外                | 46        |
| ③ 12の原則                   | 21        | (3) 【補足】用語の定義                 | 48        |
| <b>4</b> <b>TLAC</b>      | <b>22</b> | ① スポンサー                       | 48        |
| (1) TLACに関する規則の公表         | 22        | ② 米国居住者                       | 48        |
| (2) FSB公表物の概要             | 22        | (4) ボルカー・ルールのまとめ              | 49        |
| ① TLACの趣旨                 | 22        | <b>7</b> <b>規制動向と金融機関への影響</b> | <b>50</b> |
| ② TLACタムシート               | 23        | メモ                            | 51        |
| ③ 外部TLACの最低水準             | 24        | 当社について                        | 52        |
| ④ 内部TLACと重要な子会社           | 24        | 著者紹介                          | 52        |
| (3) 金融庁文書                 | 25        |                               |           |

## ＜【重要】当資料のご利用にあたって＞

### 【利用目的の限定】

当資料は、合同会社新宿経済研究所及び資料作成者（以下「当社等」）が情報提供のために作成したものです。また、当社等は、当資料に記載している内容、意見、その他の記述について、その正確性を保証するものではありません。ご利用にあたっては、全て利用者の判断において、また、必要に応じて監督官庁、会計監査人、税務当局等とのご協議や、金融・法務・会計・税務その他アドバイザーファーム等の社外専門家とご相談のうえで、適切にお取扱ください。

### 【無断複製・商用使用の禁止】

当社等はいかなる場合でも、当資料を直接・間接に入手した利用者に対して損害賠償責任を負うものではなく、当資料利用者の当社等に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されているものとします。また、著作権はすべて当社等に帰属します。商用、非商用等、その目的を問わず、当資料を無断で引用または複製することを禁じます。

### 【無断複製・商用使用の禁止】

当資料は、わが国における金融商品会計の概要について説明するものです。当資料に記載する内容の正確性については万全の注意を払っていますが、その一方で一切の誤謬が含まれていないことを保証するものではありません。また、会計方針の選択、業法の制約、その他個別の事情により、当資料に記載されている内容が妥当しない場合があります（図表 0）。

### ■ 図表 0 留意点と当資料の位置付け

| 留意点       | 概要  | 当資料の位置付け                                       |
|-----------|---|--|
| 法令・基準等の範囲 | 当資料でいう「法令・基準等」には、わが国の法律や政省令だけでなく、地方自治体の条例、国際条約、国内外の公的・民間団体等が公表する各種基準も含まれます。 | 金融商品会計や金融規制については法律・政省令にすべての規定が盛り込まれているとは限りません。 |
| 規定の解釈     | 法令・基準等の規定を実務に適用する際に、個別・具体的事例に照らして解釈が必要となる場合があります。                           | 当資料は法令・基準等の概要を紹介するものであり、解釈を示すものではありません。        |
| 法令・基準等の動向 | 当資料で参照している法令・基準等については、原則として資料作成日時点のものです。                                    | 法令・基準等は改廃がありうるため、当資料作成日時点と利用時点で規定が異なる可能性があります。 |

（出所） 金融商品会計基準等

# 1 バーゼル規制の概要

## (1) バーゼル規制の沿革

### ① 金融機能と規制の必要性

銀行を初めとする預金を取り扱う金融機関（いわゆる「預金取扱金融機関」）は、民間企業でありながらも、一般大衆から預金を受け入れ、貸出金や有価証券といった投融資を通じて信用創造を行うとともに、為替・振替等の決済システムの一翼を担っています。このため、預金取扱金融機関は、決済機能という社会インフラを担っているだけでなく、いわば経済を成長させる「リスク・テイカー」の機能も有する、社会的に重要な存在です（図表 1-1-1）。

■ 図表 1-1-1 預金取扱金融機関の三大機能

| 機能   | 説明           | 銀行法の根拠規定  |
|------|--------------|-----------|
| 受信機能 | 預金または定期積金の受入 | 第2条第2項第1号 |
| 与信機能 | 資金の貸付け、手形の割引 | 第2条第2項第2号 |
| 決済機能 | 為替取引         | 第2条第2項第3号 |

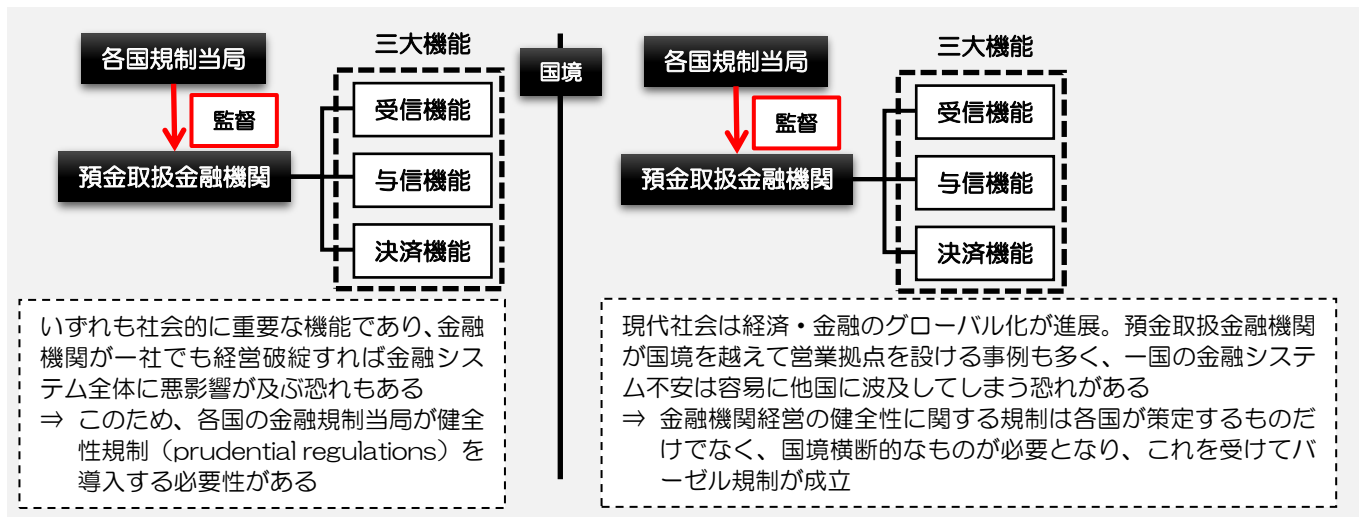


預金取扱金融機関は、民間企業でありながらも受信・与信・決済の「三大機能」を担う、社会的に重要な存在

(出所) 当社作成

これに加えて、実体経済と金融市場のグローバル化を受け、各国の金融システム危機が他国に波及する危険性は高まっています。このため、世界を横断する統一的な金融規制が必要不可欠となり、国際決済銀行（B I S）に事務局を置くバーゼル銀行監督委員会（B C B S）による、銀行等の金融機関に対する最低自己資本比率規制等が成立しました。当資料では、これを「バーゼル規制」と呼びます（図表 1-1-2）。

■ 図表 1-1-2 バーゼル規制の概要



(出所) 当社作成

### ② バーゼルⅢへの経緯と最近の論点

当資料で取り扱う「バーゼル規制」とは、スイス連邦バーゼル市に本部を置く国際決済銀行 (Bank for International Settlements, BIS) の中に事務局を置く「バーゼル銀行監督委員会」(Basel Committee on Banking Supervision, BCBS) が策定する、預金取扱金融機関の健全性に関する一連の規則をさすこととします。

このバーゼル規制とは、もともとはラテンアメリカの不良債権問題によって米国を中心とした金融危機が発生

した経験をもとに、銀行の破綻が世界的なシステミックリスクに伝播しないための枠組みとして定められたものです。その後も金融市場の動向等を踏まえ、数次にわたる改訂がなされています（図表 1-1-3）。

■ 図表 1-1-3 バーゼル規制の沿革

| 時期       | 内容                      | 備考                                 |
|----------|-------------------------|------------------------------------|
| 1988年7月  | バーゼル自己資本合意の公表           | のちに「バーゼルⅠ」と俗称される                   |
| 1992年12月 | バーゼル自己資本合意の経過措置終了       | —                                  |
| 1997年12月 | マーケット・リスク規制実施           | 日本では1998年3月末から                     |
| 1999年7月  | バーゼル自己資本合意改訂の第一次市中協議案公表 | いわゆる「バーゼルⅡ」、あるいは「新BIS」             |
| 2004年6月  | バーゼルⅡ最終規則公表             | —                                  |
| 2007年1月  | バーゼルⅡ適用開始               | 日本では2007年3月末から                     |
| 2009年7月  | バーゼル2.5公表               | —                                  |
| 2009年12月 | バーゼル規制に関する市中協議文書公表      | のちの「バーゼルⅢ」                         |
| 2010年12月 | バーゼルⅢテキスト公表             | —                                  |
| 2011年12月 | バーゼル2.5適用開始             | —                                  |
| 2013年1月  | バーゼルⅢ段階適用開始             | 日本では2013年3月から。また、国内バーゼルⅢは2014年3月から |

（出所） 「詳解バーゼルⅢによる新国際金融規制」「国内向けバーゼルⅢによる新金融規制の実務」（いずれも中央経済社）

1988年に公表された「バーゼル自己資本合意」（のちの「バーゼルⅠ」規制）は、1990年代を通じて日本の金融機関の行動にも非常に大きな影響を与えました。一方、1990年代後半に入ると、銀行の活動が伝統的な与信業務だけでなく市場リスク分野にも拡大。デリバティブ市場の急速な拡大などを受けて、市場リスク管理が新たな規制面での課題となりました。これを受けて1997年にマーケット・リスク規制が導入されたものの、金融機関の巨大化とIT化、国際化などの進展を受けて、バーゼルⅠでは金融実務のリスク補足に限界が生じました。そして、これに対応するために2007年以降、バーゼル第2次規制（俗に「新BIS」、あるいは「バーゼルⅡ」）が導入されることになりました。

しかし、2007年に発生した「サブプライム危機」や2008年の「リーマン・ショック」を受けて、バーゼルⅡの枠組みでもリスク補足が不十分な部分が露見しました。例えば、金融危機の際に市場が正常に機能しなくなり、流動性が枯渇したにも関わらず、トレーディング勘定のリスク補足がこうした事態を想定していなかったことがあります。これを受けてBCBSは2009年に、証券化商品の規制強化等を柱としたバーゼルⅡの部分補強である「バーゼル2.5」、そして2010年には「バーゼルⅢ」テキストを相次いで公表しています。

特に2008年以降の金融危機の局面で大きな問題となったのは、金融機関による過度なリスク・テイクと、それを規制当局が補足していなかったことです。

■ 図表 1-1-4 金融危機後の迷走

| 時期       | 出来事                  | 内容   | 備考   |
|----------|----------------------|--|--|
| 2008年9月  | リーマン・ショックの発生         | 米ウォール街の大規模な金融機関であったリーマン・ブラザーズが経営破綻した         | デリバティブ取引のカウンター・パーティの連鎖破綻が懸念された                     |
| 2008年10月 | IASB、IAS39改訂         | トレーディングで保有する金融商品の保有目的区分を満期保有・債権の区分に変更が可能となった | 金融危機を受けた緊急避難的対応とされる一方、BCBSは「恣意的な保有目的区分変更が可能」と批判    |
| 2008年12月 | ASBJ、「第26号報告」を公表     | 売買目的有価証券・その他有価証券を満期保有目的の債券に区分変更することを容認した会計基準 | 一部のASBJ委員からは強い批判があったが、現在は廃止され、ASBJウェブサイトからも削除されている |
| 2009年11月 | IASB、「IFRS9：金融商品」を公表 | 3つの保有目的区分を「4つに簡素化」（※原文ママ）                    | 金融危機の震源地・欧州では2015年現在、未承認                           |

（出所） 当社作成

こうした状況に対し、BCBSはトレーディング勘定に対する規制強化や銀行勘定における金利リスクの補足などを検討しているとされており、今後の動向が注目されます。

## (2) 日本国内の規制上の枠組み

「バーゼル規制」とは、国際的な合意に基づいて“Bank”に対して適用されるものですが、この“Bank”の定義・範囲には、所在国によって細かい違いが存在します。当資料では便宜上、“Bank”の訳語として「預金取扱金融機関」を充てていますが、日本国内法で「バーゼル規制」が適用される主体を概観しておきましょう（図表1-2）。

■ 図表 1-2 「バーゼル規制」が適用される金融機関と根拠法等

| 略称     | 業態                | 根拠法                          | 金融庁等が定める自己資本告示  |
|--------|-------------------|------------------------------|---|
| 銀行告示   | 銀行                | 銀行法第 14 条の 2                 | 銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準   |
| 持株告示   | 銀行持株会社            | 銀行法第 52 条の 25                | 銀行法第 52 条の 25 の規定に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らしそれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準                              |
| 信金告示   | 信用金庫及び信用金庫連合会     | 信用金庫法第 89 条第 1 項             | 信用金庫法第 89 条第 1 項において準用する銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準                |
| 信組告示   | 信用協同組合及び信用協同組合連合会 | 協同組合による金融事業に関する法律第 6 条第 1 項  | 協同組合による金融事業に関する法律第 6 条第 1 項において準用する銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準 |
| 労金告示   | 労働金庫及び労働金庫連合会     | 労働金庫法第 94 条第 1 項             | 労働金庫法第 94 条第 1 項において準用する銀行法第 14 条の 2 の規定に基づき、労働金庫及び労働金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準                |
| 農中告示   | 農林中央金庫            | 農林中央金庫法第 56 条第 1 号           | 農林中央金庫がその経営の健全性を判断するための基準   |
| 農協告示   | 農業協同組合            | 農業協同組合法第 11 条の 2 第 1 項第 1 号  | 農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準  |
| 漁協告示   | 漁業協同組合            | 水産業協同組合法第 11 条の 6 第 1 項第 1 号 | 漁業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準  |
| 商中告示   | 株式会社商工組合中央金庫      | 株式会社商工組合中央金庫法第 23 条第 1 項     | 株式会社商工組合中央金庫法第 23 条第 1 項の規定に基づき、株式会社商工組合中央金庫がその経営の健全性を判断するための基準   |
| 最終指定告示 | 一定要件を満たす証券会社      | 金融商品取引法第 57 条の 17 第 1 項      | 最終指定親会社及びその子法人等の保有する資産等に照らし当該最終指定親会社及びその子法人等の自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準   |

(出所) 法令及び金融庁。なお、「略称」欄の呼称は当社が便宜上設定したもの。

以下、当資料においては、金融庁が設定するこれらの告示類を、「銀行告示」などと称することがあるほか、特に「銀行告示」については、単に「告示」と呼称することもあります。

### (3) 現在のバーゼル規制の枠組み

#### ① バーゼルⅡの「3本柱」

現在のバーゼル規制の具体的な内容は、どのようなものでしょうか。現在のバーゼル規制は「バーゼルⅢ」と呼ばれていますが、大きな枠組みはバーゼルⅡ時代の「3本柱の規制」を引き継いでいます（図表 1-3-1）。

■ 図表 1-3-1 バーゼルⅡの「3本柱」

| 区分   | 項目         | 内容   |
|------|------------|--|
| 第1の柱 | 最低自己資本比率規制 | リスク・アセットに対して一定水準以上の自己資本を維持することを義務付ける規制。強行法規的側面を持つことから、「ハード・リミット」とも呼ばれる   |
| 第2の柱 | 金融機関の自己管理  | 市場リスク管理や大口与信等、信用リスクの枠組みでは補足しきれないリスクの把握・管理を金融機関の自己管理に委ねつつ、監督上の検証を加えるもの。アウトライヤー基準等は存在するものの、いわば「ソフト・リミット」としての位置付け |
| 第3の柱 | 金融機関への市場規律 | ディスクロージャーなどを通じて金融機関に対する市場の規律を確保する仕組み   |

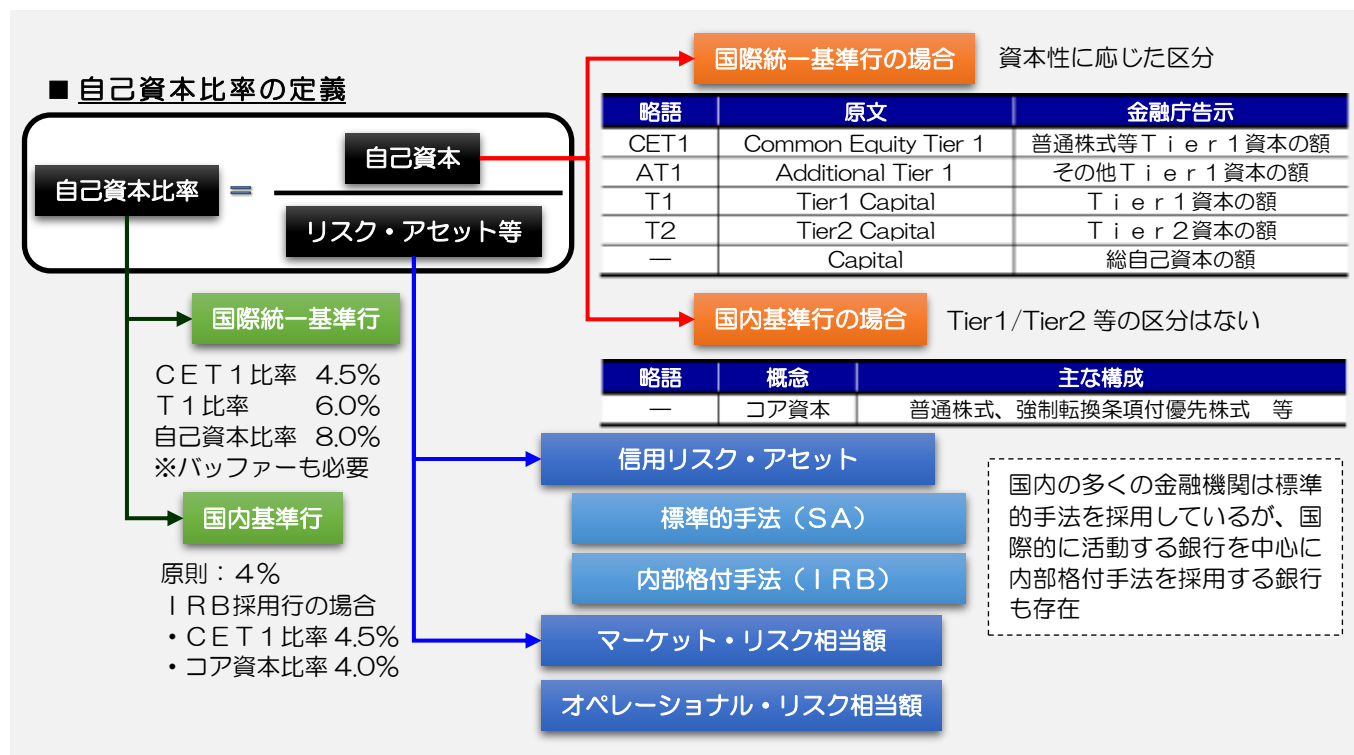
(出所) 当社作成

自己資本比率規制の枠組み自体、既に「バーゼルⅢ」に移行していますが、現在のところ、BCBSはこの「3本柱の規制の枠組み」については基本的に維持し、強化する方向にあります。

#### ② 第1の柱「自己資本比率規制」の沿革

バーゼル規制は別名「自己資本比率規制」とも俗称されていますが、ここでいう自己資本比率規制とは、リスク・アセットに対する一定以上の資本を維持することを預金取扱金融機関に義務付けるもので、バーゼルⅡ規制では「第1の柱」に位置付けられます（図表 1-3-2）。

■ 図表 1-3-2 バーゼル規制の「第1の柱」



(出所) 当社作成

ここで、「国際統一基準行」とは、日本の法律で設立された預金取扱金融機関のうち、日本国外に支店や銀行子会社等を有している金融機関をさし、「国内基準行」とはそれ以外の金融機関をさします（銀行告示第2条）。

### ③ バーゼルⅢ規制と最低自己資本比率規制

2015年3月末時点における「国際統一基準行」は次の通りです（図表 1-3-3）。

■ 図表 1-3-3 2015年3月末現在・国際統一基準行一覧

| 区分    | 会社名  |                     | 数     |
|-------|--|---------------------|-------|
| 大手銀行  | みずほフィナンシャルグループ                                     | みずほ銀行／みずほ信託銀行       | 4グループ |
|       | 三井住友フィナンシャルグループ                                    | 三井住友銀行              |       |
|       | 三菱UFJフィナンシャル・グループ                                  | 三菱東京UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行 |       |
|       | 三井住友トラスト・ホールディングス                                  | 三井住友信託銀行            |       |
| 地方銀行  | 群馬銀行、千葉銀行、横浜銀行、八十二銀行、静岡銀行、滋賀銀行、中国銀行、山口銀行、伊予銀行、北國銀行 |                     | 10銀行  |
| 第二地銀  | 名古屋銀行  |                     | 1銀行   |
| 協同組織等 | 農林中央金庫、株式会社商工組合中央金庫                                |                     | 2法人   |
| 証券会社  | 野村ホールディングス、大和証券グループ本社                              |                     | 2社    |

（出所） 当社作成

なお、自己資本比率告示が適用される日において、日本国外に銀行告示上の「営業拠点」を置いていない預金取扱金融機関は、国内基準行です。ただし、信用リスク・アセットの計算において、「内部格付手法」（Internal Rating internal Based approach, IRB）を採用している銀行に対しては、部分的に国際統一基準行の規制が適用されます（図表 1-3-4）。

■ 図表 1-3-4 最低自己資本比率規制

| 区分        | 自己資本の主な構成 | 国際統一基準行         | 国内基準行  |       |
|-----------|-----------|-----------------|--------|-------|
|           |           |                 | 内部格付手法 | 標準的手法 |
| バーゼルⅡ     | 自己資本比率    | Tier 1 + Tier 2 | 8%以上   | 4%以上  |
| バーゼルⅢ（国際） | CET1比率    | CET1            | 4.5%以上 | —     |
|           | T1比率      | T1(=CET1+AT1)   | 6%以上   | —     |
|           | 自己資本比率    | T1 + T2         | 8%以上   | —     |
| バーゼルⅢ（国内） | 自己資本比率    | コア資本            | —      | 4%以上  |

（出所） 当社作成

これに加え、国際統一基準行に該当した場合や、一定以上の規模を有する金融機関である場合などには、追加で自己資本比率を積み増すことが求められます（図表 1-3-5）。

■ 図表 1-3-5 バッファ規制

| 区分                    | CET1部分            | T1全体    | 総自己資本    |
|-----------------------|-------------------|---------|----------|
| 最低自己資本比率              | 4.5%              | 6%      | 8%       |
| 国際統一基準行に<br>対するバッファ   | 資本保全バッファ          | —       | —        |
|                       | カウンター・シクリカル・バッファ  | 0~2.5%  | —        |
| 最低自己資本比率+バッファ         | 7.0~9.5%          | 8.5~11% | 10.5~13% |
| SIBバッファ               | D-SIBに該当した場合の追加負荷 | 0.5%~   | —        |
|                       | G-SIBに該当した場合の追加負荷 | 1~3.5%  | —        |
| 最低自己資本比率+バッファ+SIBバッファ | 7.5~13%           | 9~14.5% | 11~16.5% |

（出所） 金融庁告示等より、当社作成



#### ④ 第2の柱

バーゼルⅡ規制における「第2の柱」とは、いわば「第1の柱」だけでは捕捉しきれないリスクを把握することを目的としたものです。その基本的な考え方は、「バーゼルⅡ『第2の柱』の四つの主要原則」にも言及があります（図表 1-3-6）。

■ 図表 1-3-6 四つの主要原則

| 四つの主要原則 |   |
|---------|---|
| 1       | 銀行は、自行のリスク・プロファイルに照らした全体的な自己資本充実度を評価するプロセスと、自己資本水準の維持のための戦略を有するべきである。   |
| 2       | 監督当局は、銀行が規制上の自己資本比率を満たしているかどうかを自らモニター・検証する能力があるかどうかを検証し評価することに加え、銀行の自己資本充実度についての内部的な評価や戦略を検証し評価すべきである。監督当局はこのプロセスの結果に満足できない場合、適切な監督上の措置を講ずるべきである。 |
| 3       | 監督当局は、銀行が最低所要自己資本比率以上の水準で活動することを期待すべきであり、最低水準を超える自己資本を保有することを要求する能力を有しているべきである。   |
| 4       | 監督当局は、銀行の自己資本がそのリスク・プロファイルに見合っ必要とされる最低水準以下に低下することを防止するために早期に介入することを目指すべきであり、自己資本が維持されない、あるいは回復されない場合には早急な改善措置を求めるべきである。                           |

（出所） BCBS等

なお、現在のバーゼルⅡ「第2の柱」の枠組みは、具体的には金利リスク量に関するアウトライヤー規制などが含まれていますが（図表 1-3-7）、必ずしも罰則を伴うものではないため、昨今、これらの規制を「第1の柱」に移管させることなどが議論されている模様です。

■ 図表 1-3-7 バーゼルⅡ第2の柱の概要

| 区分            | 概要   |
|---------------|--|
| 市場リスク管理態勢の不備  | 有価証券の価格変動等による影響を基準として、市場リスク等の管理態勢について改善が必要と認められる銀行   |
| アウトライヤー基準への抵触 | 銀行勘定における金利リスク量、すなわち一定の金利ショックにより計算される経済価値の低下額が資本（国際統一基準行にあっては総自己資本の額、国内基準行にあっては自己資本の額）の20%を超える銀行  |
| 信用集中リスク       | 下記のいずれか大きい方を「大口与信先」とみなす<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・（総）自己資本の額の10%以上の与信先</li> <li>・与信残高が上位一定数以上の先</li> </ul> また、大口先のうち、要管理先以下の者に対する債権の非保全額の一定割合が損失となったと仮定した場合の損失額を「大口リスクが顕在化した場合の影響額」として把握する |

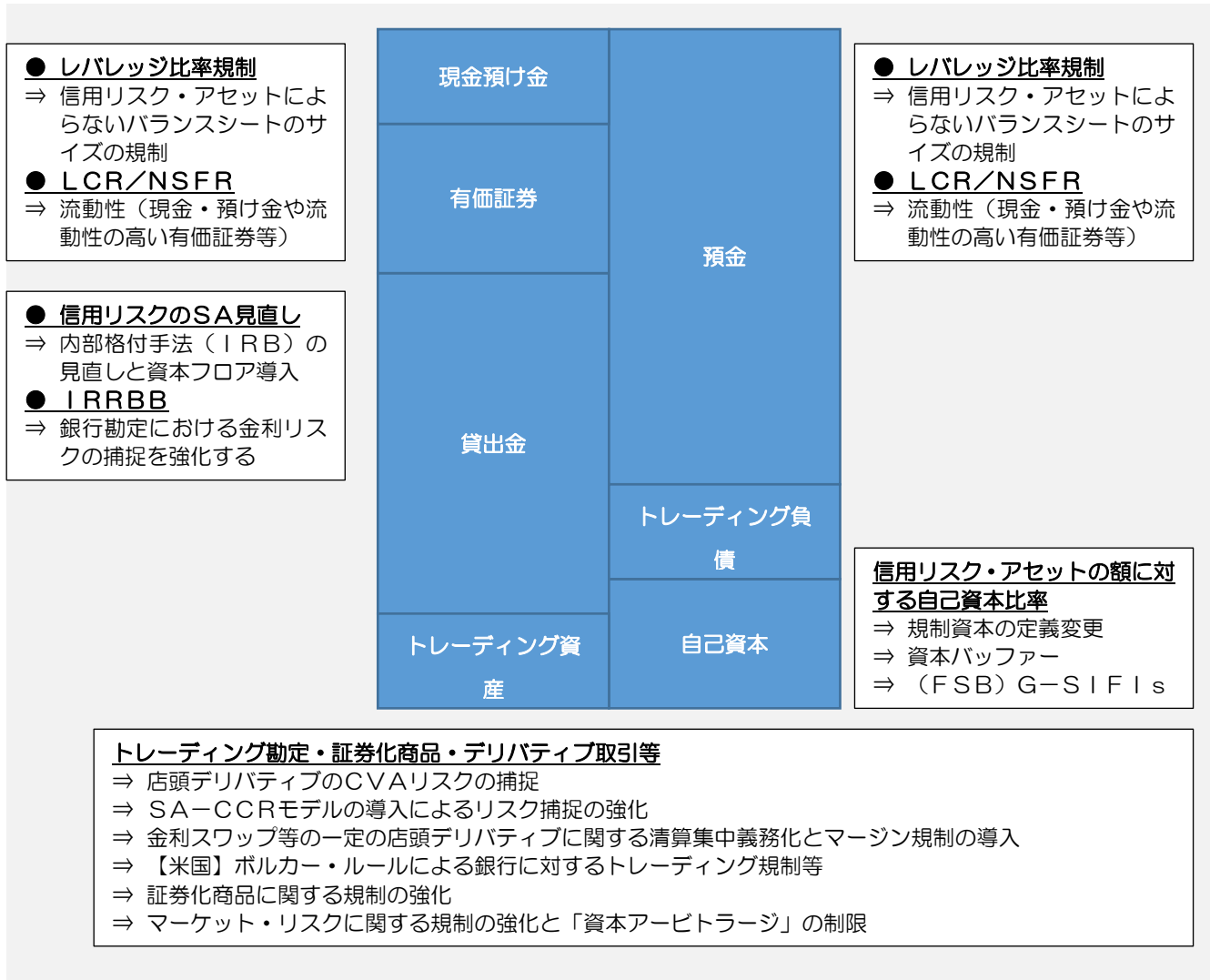
（出所） 当社作成

## (4) バーゼル規制の変革

### ① 規制見直しの全体像

バーゼル規制全体の見直し項目は多岐にわたり、相互関連性も見え辛い点ですが、これを「銀行のバランスシート」から眺めると、**図表 1-4-1** のイメージです。

■ 図表 1-4-1 見直しの全体像



(出所) 当社作成

## ② 金融規制の最近の論点

2008年の金融危機を契機に、国際的な当局による金融規制の変革が進行しています（図表 1-4-2）。

■ 図表 1-4-2 主な金融規制の流れ

| 項目           | 主な内容               | 導入時期  |                |
|--------------|--------------------|---|----------------|
| バーゼルIIIテキスト等 | バーゼルIII規制（国際統一基準行） | 自己資本比率の「分子」を中心に、CET1、AT1、T2などの概念を導入し、併せてCET1規制を強化するもの。また、デリバティブ等に関するCVA等の規制も導入  | 2013年          |
|              | 国内バーゼルIII規制（国内基準行） | 国際統一基準行に対するバーゼルIIIの導入を受けて、国内行についてもそれと平仄を併せる規制を導入するもの。ただし、自己資本の定義はバーゼルII規制時代と比べて簡素化されている   | 2014年          |
|              | 資本バッファ             | 国際統一基準行における資本バッファ（資本保全バッファ比率とカウンター・シクリカル・バッファ比率の合計値）  | 2016年～         |
|              | レバレッジ規制            | リスク・アセット・ベースではない、自己資本に対するバランスシートの規模を規制する比率。当面の要求水準は3%以上   | 2018年          |
|              | LCR/NSFR           | 主に国際統一基準行を対象に、短期的・長期的な預金流出リスクを規制するもの  | 2015年<br>2018年 |
| BCBS・その他の論点  | 標準的手法（SA）の見直し      | 外部格付への自動的な依存を配するなど、標準的手法（SA）採用行における「自己資本の分母」項目の見直し  | 未定             |
|              | 資本フロア              | 内部格付手法（IRB）採用行における、SA採用行との信用リスク・アセット等の乖離を抑制する基準   | 未定             |
|              | 銀行勘定の金利リスク（IRRBB）  | 現行「第二の柱」の対象とされている銀行勘定における金利リスクについて、「第二の柱」の位置付けのまま規制を強化するもの  | 2018年          |
|              | オペレーショナル・リスクの見直し   | オペレーショナル・リスクに関する基礎的手法について見直すとともに先進的手法を廃止する  | 未定             |
|              | 証券化商品に関する規制        | バーゼルII規制における証券化商品に関する外部格付への機械的な依存やクリフ効果の緩和等を目的とした証券化商品規制の見直し  | 2018年          |
|              | マーケット・リスク規制の強化     | トレーディング勘定とバンキング勘定との間の「資本アービトラージ」を抑制するもの。部分的に会計基準上の保有目的区分の無効化も含む   | 2019年          |
|              | 大口与信規制             | 現行「第二の柱」の対象とされている大口エクスポージャー等に関するソフト・リミット規制を、「第一の柱」のハード・リミット規制に変更するもの  | 2019年          |
| その他規制        | 大口信用供与等規制          | 銀行法第13条に定める信用供与等規制の大幅な強化と対象範囲の拡大。なお、国際的な大口与信規制との統合を踏まえ、ファンドのルックスルー等の取扱い等、導入が見送られた項目も。   | 2014年<br>11月   |
|              | デリバティブ規制           | 一定の店頭デリバティブ取引に関する中央清算機関（CCP）への清算集中義務と、非中央清算デリバティブに関する証拠金（VM/IM）規制   | 2012年～         |
|              | 米FATCA法対応          | 米国居住者の外国税務コンプライアンス（FATCA）法。わが国では不同意米国口座及び不参加金融機関へ支払われた外国報告対象金額についての情報を国税庁等に提供する仕組みが存在   | 2015年～         |
|              | G-SIBsに対するTLAC規制等  | G-SIBsに該当した場合の資本賦課（上記資本バッファに追加）。また、自己資本に加えて損失吸収条項付の負債を発行することなどを義務付けるもの  | 2019年～         |
|              | 米ボルカー・ルール          | 銀行等の事業体に対し、「リスクが高い」とされる一定の取引（自己勘定取引やファンド投資活動等）を行うことを原則として禁止するもの。外国銀行（例：邦銀）の場合、米国に支店・現地法人等を設けている際にボルカー・ルール上の「銀行事業体」の認定を受けるが、「完全な米国外（いわゆるSOTUS）」要件を充足する場合など、適用の除外規定も設けられている | 2014年～         |

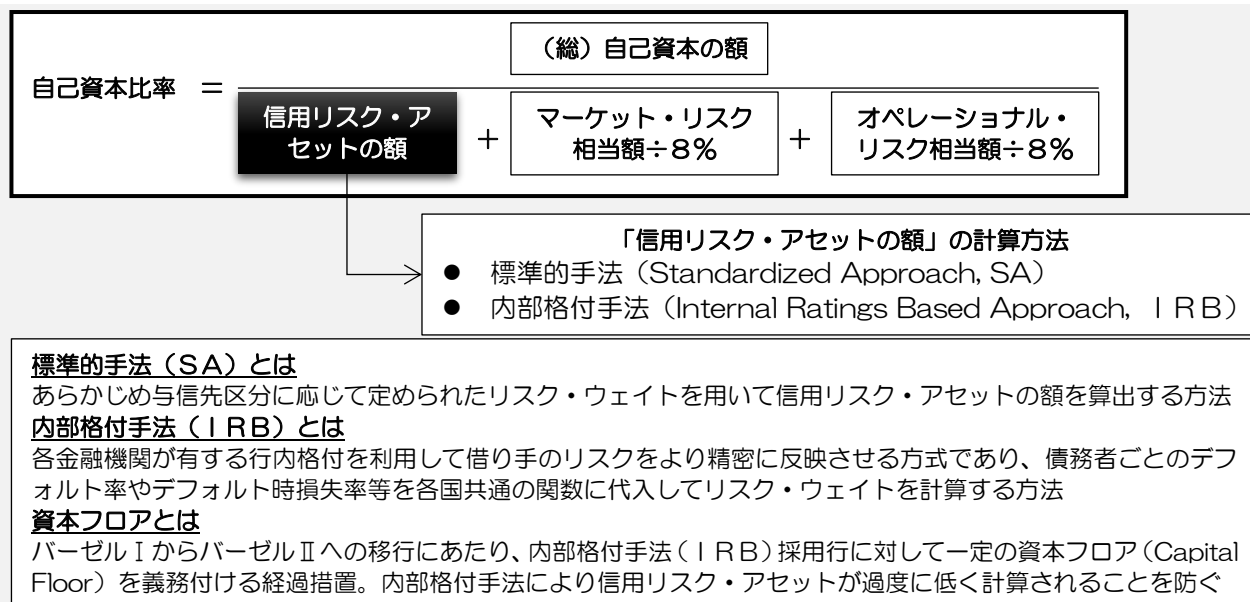
（出所） 当社作成

## 2 標準的手法の見直し

### (1) 標準的手法 (SA) とは

銀行等金融機関はバーゼルⅡ規制の「第1の柱」の枠組みに従い、「自己資本比率」を計算し、当局に報告する義務があります (図表 2-1-1)。

■ 図表 2-1-1 自己資本比率と信用リスク・アセット



(出所) 当社作成

しかし、金融危機以降、内部格付手法採用行の計算する信用リスク・アセットの額のばらつき (variation) が大きすぎることを問題視しており、これに関連してBCBSは2016年3月に、IRBの改善に関する市中協議文書を公表しています (図表 2-1-2)。

■ 図表 2-1-2 IRBの改善に関するBCBSの市中協議文書

市中協議文書「信用リスク・アセットのばらつきの低減について—内部モデルアプローチ利用の制限」  
原題 “Consultative Document: Reducing variation in credit risk-weighted assets – constraints on the use of internal model approaches”

①規制フレームワークの複雑性の軽減と②信用リスク・アセットの額の算出に関するばらつきを抑えるために：

- 特定のエクスポージャーについて内部モデル方式の利用を禁止する
- モデル・パラメーター・フロアを導入するなどして、信用リスク・アセットの額の保守性を確保する
- パラメーター推計に関する実務上の銀行間でのばらつきを軽減することなどを提案。これに加え、BCBSとしては引き続き、標準的手法 (SA) をベースとした資本フロアの水準調整を続ける方針 (同P1~2)。

(出所) 当社作成

## (2) SA見直しの位置付け

BCBSは2015年12月10日に「信用リスクに係る標準的手法の見直しに関する第二次市中協議文書」(原題“Revisions to the Standardised Approach for credit risk - second consultative document”)を公表しました。この市中協議文書は、2014年12月22日に公表された第一次市中協議文書に寄せられた意見などを踏まえ、BCBSが再度検討したものであるとしています(今回の市中協議文書について、BCBSは2016年3月11日を期日とした意見の募集を行っていました)。

### ① 第一次市中協議文書の概要

BCBSは、2014年12月の第一次市中協議文書で、「自己資本比率規制を強化するため」として、いくつかの柱を提案していました(図表2-2-1、図表2-2-2)。

■ 図表2-2-1 2014年12月時点の市中協議文書の柱

| # | 原文   | 仮訳  |
|---|--|---|
| ① | reduced reliance on external credit ratings  | 外部格付への依存度の低減  |
| ② | enhanced granularity and risk sensitivity  | 均質性とリスク感応度の強化   |
| ③ | updated risk weight calibrations, which for purposes of this consultation are indicative risk weights and will be further informed by the results of a quantitative impact study | リスク・ウェイト調整の更新。なお、当市中協議文書では仮のリスク・ウェイト案を示すが、今後の影響度調査の結果により追加情報を公表する |
| ④ | more comparability with the internal ratings-based (IRB) approach with respect to the definition and treatment of similar exposures  | 類似するエクスポージャーの定義や取扱いを巡り、内部格付手法(IRB)との比較可能性をさらに高めること                |
| ⑤ | better clarity on the application of the standards   | 基準の適用におけるより高い透明性  |

(出所) BISの「d307」のカバーページ。なお、ナンバリングは当社による加工

■ 図表2-2-2 2014年12月時点の言及範囲

| # | 項目                                 | 記載内容   |
|---|------------------------------------|--|
| ① | 銀行向けエクスポージャー (Bank exposures)      | 銀行に対する、またはソブリンに対する外部格付を参照したリスク・ウェイトの使用を取りやめ、銀行の自己資本比率と不良債権比率という二つのリスク要因を用いる  |
| ② | 企業向けエクスポージャー (Corporate exposures) | 債務者である企業の外部格付によらず、その企業の収入とレバレッジを基礎としてリスク・ウェイトを判定する。これに加え、特定貸付債権(SL)に対して特別の取扱いを導入することで、リスク感応度とIRBとの比較可能性についても強化する                                       |
| ③ | リテール・カテゴリー (Retail category)       | 優遇的なリスク・ウェイトの適用を受けるための要件を厳格化するとともに、その要件を満たさないエクスポージャーに対する代替的なアプローチについても導入する  |
| ④ | 居住用不動産 (Residential real estate)   | リスク・ウェイトを35%とする現行の取扱いを廃止し、一般的に利用される二つの尺度である融資に対する不動産の時価の比率(LTV: loan-to-value ratioなど)、債務者の債務負担の度合い(DSCR: debt-service coverage ratioなど)、を基礎とする手法を導入する |
| ⑤ | 商業用不動産 (Commercial real estate)    | 現在、当委員会は(a)その法域において、特定条件を満たした場合に、そのエクスポージャーを無担保とみなす方法、または(b)LTVを基礎としてリスク・ウェイトを決定する方法、の2つの選択肢を検討している  |
| ⑥ | 信用リスク削減手法 (Credit risk mitigation) | 現行のアプローチの数を削減することで規制上の枠組みを改定する。規制上のヘアカットを再調整し、法人保証人の適格要件についても更新する  |

(出所) BISの「d307」のカバーページ。なお、ナンバリングは当社による加工

## ② 第二次市中協議文書の概要

B C B S が 2015 年 12 月 10 日に公表した「第二次市中協議文書」の概要は図表 2-2-3 の通りです。

■ 図表 2-2-3 第二次市中協議文書の概要

| 項目  | 記載内容抜粋   |
|---|--|
| 銀行向け<br>Exposures to banks  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>外部格付の利用を容認している法域の場合</b><br/>「外部信用リスク査定アプローチ (External Credit Risk Assessment Approach: ECRA)」、すなわち相手先銀行に対する外部格付に従い「ベース・リスク・ウェイト」を決定するが、相手先銀行に対するデュー・デリジェンスの結果、「ベース・リスク・ウェイト」よりも高いリスク・ウェイトが適用されることもある</li> <li>● <b>外部格付の利用を容認していない法域、及び無格付の銀行の場合</b><br/>「標準的信用リスク評価アプローチ」(Standardised Credit Risk Assessment Approach: SCRA)、すなわち「A~C」の「グレード」を決定し、グレードに応じて異なるリスク・ウェイトを適用する</li> <li>● <b>リスク・ウェイトのフロア</b><br/>一定要件 (例えば銀行の設立国のソブリン) に従いリスク・ウェイトにフロアを設定</li> <li>● <b>短期エクスポージャー</b><br/>当初契約が3カ月以下のエクスポージャーに対する優遇措置</li> </ul> |
| 事業法人向け<br>Exposures to corporates   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>外部格付の利用を容認している法域におけるリスク・ウェイト</b><br/>外部格付に従い「ベース・リスク・ウェイト」を決定するが、デュー・デリジェンスの結果、それよりも高いリスク・ウェイトが適用されることもある<br/>無格付の場合、デフォルト・エクスポージャー以外は 100% のリスク・ウェイト</li> <li>● <b>外部格付の利用を容認していない法域におけるリスク・ウェイト</b><br/>『投資適格級』(investment grade) の場合、75% のリスク・ウェイトの適用が可能<br/>それ以外の場合、デフォルト・エクスポージャー以外は 100% のリスク・ウェイト</li> <li>● <b>中小企業 (SMEs) 向け</b><br/>85% という優遇的リスク・ウェイト</li> </ul>  |
| 事業法人向け特定貸付債権<br>Specialised lending<br>exposures to corporates                  | 内部格付手法採用行にいう「特定貸付債権」(Specialised lending, SL) に該当する事業法人向けエクスポージャーのうち、「不動産購入・開発・建設融資」には 150%、その他の SL には 120% のリスク・ウェイトを適用する   |
| 劣後債、株式その他資本証券<br>Subordinated debt, equity<br>and other capital<br>instruments  | 第二次市中協議文書では、株式 (自己資本控除の対象外である金融機関の株式を含む) に 250%、自己資本控除の対象外である株式以外の資本商品・劣後債に 150% のリスク・ウェイトを適用することを提案しつつ、Q I S の追加検証を加える  |
| リテール・ポートフォリオ<br>Retail portfolio  | リテール・ポートフォリオを「個人と SME へのエクスポージャー」と改めて定義することを提案しつつも、第一次市中協議文書の要件等を概ね引き継ぐ<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 規制上のリテール・エクスポージャー…75%</li> <li>● その他のリテール・エクスポージャー…100%か SME 向けの 85%</li> </ul>  |
| 不動産向けエクスポージャー<br>Real estate exposure class                                     | 不動産向けエクスポージャーについては、居住用・商業用の区分を維持しつつ、それぞれ収益物件である場合に、LTV に従ったリスク・ウェイトなどを利用する   |
| 通貨のミスマッチへのアドオン<br>Risk weight add-on for<br>exposures with currency<br>mismatch | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業法人向けポートフォリオ (corporate portfolio) のうち、通貨のミスマッチの非ヘッジ部分に対して 50% のリスク・ウェイト・アドオンを付加する</li> <li>● 「非ヘッジ部分」とは、通貨のミスマッチから生じる、自然な、または負債側のヘッジ手段を有していない状態をさす</li> </ul>   |
| オフ・バランス項目<br>Off-balance sheet<br>exposures                                     | オフ・バランス取引の与信相当額を算出する際の「掛目」(credit conversion factor, CCF) について、第一次市中協議文書と比べ、リテール向けの「無条件で取り消し可能なコミットメント」(unconditionally cancellable commitments, UCC) を 10~20% に引き下げる修正などを加える  |
| デフォルト・エクスポージャー<br>Defaulted exposures   | 現行の標準的手法における「延滞」は「90 日」という単純な定義に基づいているが、内部格付手法との整合性の観点から標準的手法にも「デフォルト・エクスポージャー」の定義を設ける   |
| 国際開発銀行向け<br>Exposures to multilateral<br>development banks                      | ゼロ% のリスク・ウェイトの適用を受ける国際開発銀行 (MDB) のリストの頻繁な更新を避けるため、「トリプル A」を「入口基準」として設定し、「AA-」以下に引き下げられない限りはリストに留まる取り扱いを提案する  |
| その他の資産 Other assets   | 現行の標準的手法に対して限定的・マイナーな修正を提案   |
| 信用リスク削減手法<br>Credit risk mitigation<br>framework                                | レボ形式の取引に対する手法の見直しと信用リスク削減手法における外部格付基準の再導入の提案など   |

(出所) B I S の「d347」の PDF 版 P3~P20

### (3) 銀行・法人向けエクスポージャー

#### ① 第一次市中協議文書の修正

BCBSによると、第一次市中協議文書で提案していた銀行・法人向けエクスポージャーのリスク・ウェイトについては、いくつかの意見が寄せられ、これを受けてアプローチの修正を図ることとしています。

#### ■ 図表 2-3-1 第二次市中協議文書 銀行・法人向け

##### 第一次市中協議文書に寄せられた意見の例

銀行・法人向けエクスポージャーに関する第一次市中協議文書の提案について：

- 格付の参照を完全に取りやめることは不必要だし望ましくない (complete removal of references to ratings was unnecessary and undesirable)
- 提案された手法は複雑すぎる (the approach would be overly complex)
- リスクを取りすぎることを勧奨する (it would be extremely insensitive to risk)

##### 意見を受けたBCBSの提案

| 領域             | 第二次市中協議文書の提案概要   |
|----------------|--|
| 銀行向けエクスポージャー   | <p><b>【外部格付利用を容認している法域】</b><br/>外部格付を基本としつつも、格付への機械的な依存度を低減するために、外部格付の下方修正の必要性を判断するデュー・デリジェンスの実施を義務付ける</p> <p><b>【外部格付利用を禁じている法域、無格付銀行】</b><br/>相手先の銀行を最低要件に応じてA、B、Cの3つに区分する。低リスクの最低要件が満たされたとしても、デュー・デリジェンス結果次第ではより高いリスク要件が適用されることもある</p>  |
| 事業法人向けエクスポージャー | <p><b>【外部格付利用を容認している法域】</b><br/>外部格付を基本としつつも、デュー・デリジェンス次第ではより高いリスク・ウェイトが適用される。無格付企業は現行同様に100%のリスク・ウェイトが適用される。また、適格保証・適格金融担保は現行と同様、外部格付に依存する</p> <p><b>【外部格付利用を禁じている法域】</b><br/>特定の「投資適格級」(“Investment grade” entities) 要件を満たす一定企業には75%よりも低いリスク・ウェイトを適用する。その他のエクスポージャーは100%のリスク・ウェイトとする。「投資適格級」向けの貸出・社債は信用リスク削減手法に適格である</p> <p><b>【すべての法域】</b><br/>中小企業 (SMEs : Small and medium entities) に対するリスク・ウェイトは85%とする (現行は75%)</p> |

(出所) BISの「d347」P1～2

第一次市中協議文書では、例えば銀行の場合、外部格付を利用せず、CET1比率や不良債権比率に応じ、リスク・ウェイトを判定することが提案されていました。また、事業法人向けエクスポージャーについては、売上高 (revenue) やレバレッジ比率を用いたリスク・ウェイトの判定手法が提案されていました。

しかし、第二次市中協議文書では、「外部格付の問題は主にソブリンと証券化商品に焦点が当たっていた (external ratings were mainly focused on securitisations and sovereigns)」(同P3) との指摘が寄せられたとしており、これを受けてBCBSは外部格付の利用を再度導入することにしたとしています。

#### ② 銀行向けエクスポージャーの手続一覧

第二次市中協議文書に示された「ECRA」「SCRA」の概要は、図表 2-3-2、図表 2-3-3、図表 2-3-4 の通りです。ただし、SCRAを利用する場合、たとえば「A」「B」に該当している相手先であったとしても、自らの判断において、相手先の銀行の「グレード」を引き下げることが可能であると記載されています。

■ 図表 2-3-2 ECRA の手続一巡

| # | 原文  | 仮訳  |
|---|---|---|
| ① | a bank would determine the “base” risk weight of an exposure based on the external rating of the counterparty/exposure using a look-up table  | 外部格付に基づき、対応表から基礎となるリスク・ウェイト (“base” risk weight) を決定                          |
| ② | the bank would perform due diligence to ensure that the external rating appropriately and conservatively reflects the credit risk of the exposure   | その外部格付が当該エクスポージャーの信用リスクを適切に反映しているかどうかを確認するために、デュー・デリジェンスを実施                   |
| ③ | if the due diligence assessment reflects higher risk characteristics than that implied by the external rating of the exposure, the bank would apply a higher risk weight for the exposure | デュー・デリジェンスの結果、当該銀行に対し、より高いリスク・ウェイトを適用すべきと判断される場合は、外部格付に対応するものよりも高いリスク・ウェイトを適用 |
| ※ | due diligence analysis should never result in the application of a lower risk weight than that determined by the external rating  | デュー・デリジェンスの結果、外部格付により決定されるものよりも低いリスク・ウェイトが適用されることはない                          |

(出所) BISの「d347」P4。なお、ナンバリングは当社による加工

■ 図表 2-3-3 SCRA の評価区分の定義

| 区分      | 原文  | 仮訳  |
|---------|---|---|
| Grade A | exposures to bank counterparties that have adequate capacity to meet their financial commitments (including repayments of principal and interest) in a timely manner, for the projected life of the assets or exposures, and irrespective of economic cycles or business conditions | その資産ないしはエクスポージャーが存在する期間にわたって、景気循環や事業の状況にも関わらず、金融上の義務(元本弁済や金利を含む)を適時に履行する上で適切な資本水準を備えた銀行に対するエクスポージャー |
| Grade B | exposures to bank counterparties that are subject to substantial credit risk, with repayment capacities dependent on stable or favourable economic or business conditions   | 債務弁済能力について安定的、あるいは経済上、または事業上の状況が良好であることに依存するなど、潜在的な信用リスクの懸念がある銀行に対するエクスポージャー                        |
| Grade C | higher credit risk exposures to counterparties that have material default risks and limited margins of safety   | 重要なデフォルト・リスクを有し、安全性の余力が乏しい銀行に対するエクスポージャー  |

(出所) BISの「d347」P5

■ 図表 2-3-4 SCRA に基づく場合の判定基準とリスク・ウェイト

| 区分      | 判定基準  | 仮訳  | R/W  |
|---------|---|---|------|
| Grade A | a counterparty exceeds the published minimum regulatory requirements (eg leverage, liquidity and risk-based capital ratios) and buffers (eg GSIB surcharge, capital conservation and countercyclical capital buffers) established by its national supervisor as implemented in the jurisdiction where the borrowing bank is incorporated  | 相手先銀行の設立国における規制当局が設定した最低水準規制(例:レバレッジ、流動性、自己資本比率)やバッファー(例:GSIBバッファー、資本バッファー等)として公表されている水準を超過している場合   | 50%  |
| Grade B | a counterparty does not meet one or more of the applicable published buffers (eg GSIB surcharge, capital conservation and countercyclical capital buffers) required by its national supervisor as implemented in the jurisdiction where the borrowing bank is incorporated  | 相手先銀行の設立国における規制当局が設定したバッファー(例:GSIBバッファー、資本バッファー等)として公表されている水準に満たないものが、どれか一つ以上ある場合   | 100% |
| Grade C | <ul style="list-style-type: none"> <li>The bank counterparty has breached any of the published and binding minimum regulatory requirements determined by national supervisors as implemented in the jurisdiction where the borrowing bank is incorporated; or</li> <li>Where audited financial statements are required on the bank counterparty, the external auditor has issued an adverse audit opinion, or it has expressed substantial doubt about the counterparty's ability to continue as a going concern in its financial statements or audited reports within last 12 months.</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手先銀行の設立国における規制当局が設定した最低水準規制として公表されている水準に満たないものが存在する場合</li> <li>監査済の財務諸表が必要な局面において、過去12カ月の間に、その外部監査人が反対の監査意見を表明し、または継続企業の前提に対する潜在的な疑念を表明しているような場合</li> </ul> | 150% |
| Default | —   | —   | 150% |

(出所) BISの「d347」P5~6



## (4) 付属文書

### ① Annex 1 に示されたリスク・ウェイト表

第二次市中協議文書「付属文書 (Annex) 1」に示されたリスク・ウェイト表は、**図表 2-4-1** の通りです。

#### ■ 図表 2-4-1 リスク・ウェイトの一覧表

| ECRA を使った場合の銀行に対するリスク・ウェイト           |         |         |           |         |       |      |
|--------------------------------------|---------|---------|-----------|---------|-------|------|
| その銀行に対する外部格付                         | AAA~AA- | A+~A-   | BBB+~BBB- | BB+~B-  | B-未満  |      |
| 「ベース」リスク・ウェイト                        | 20%     | 50%     | 50%       | 100%    | 150%  |      |
| 短期エクスポージャー                           | 20%     | 20%     | 20%       | 50%     | 150%  |      |
| SCRA を使った場合の銀行に対するリスク・ウェイト           |         |         |           |         |       |      |
| その銀行に対する信用評価                         | Grade A | Grade B | Grade C   |         |       |      |
| 「ベース」リスク・ウェイト                        | 50%     | 100%    | 150%      |         |       |      |
| 短期エクスポージャー                           | 20%     | 50%     | 150%      |         |       |      |
| 外部格付による場合の事業法人向けのリスク・ウェイト (SME 等を除く) |         |         |           |         |       |      |
| その企業に対する外部格付                         | AAA~AA- | A+~A-   | BBB+~BBB- | BB+~BB- | BB-未満 | 無格付  |
| 「ベース」リスク・ウェイト                        | 20%     | 50%     | 50%       | 100%    | 150%  | 100% |

(出所) BIS の「d347」P27~31

### ② デュー・デリジェンスをいかに実施するか

デュー・デリジェンスの実施については、「付属文書 (Annex) 1」の第 14 項、第 15 項に言及があります (図表 2-4-2)。

#### ■ 図表 2-4-2 デュー・デリジェンス

| #  | 原文  | 仮訳  |
|----|---|---|
| 14 | In line with paragraphs 733 to 735 of the Basel II framework, banks must perform due diligence to ensure that they have an adequate understanding, at origination and thereafter on a regular basis (at least annually), of the risk profile and characteristics of their counterparties. Banks must take reasonable and adequate steps to assess the operating and financial performance levels and trends through internal credit analysis and/or other analytics outsourced to a third party, as appropriate for each counterparty. Banks must be able to access information about their counterparties on a regular basis to complete due diligence analyses. | バーゼルⅡテキスト第 733 項から 735 項の枠組みに従い、銀行は一定間隔で(少なくとも年 1 回は)デュー・デリジェンスの手続を実施することで相手先銀行のリスク・プロファイルと性質を正しく理解しなければならない。銀行はそれぞれの相手先について、自行内で実施した、あるいは第三者に対して依頼した分析に基づき、業務上、及び財政上の状況を適時・適切に分析しなければならない。銀行はデュー・デリジェンスを完遂するために、相手先銀行に関する情報を定期的に得る体制を整えなければならない。 |
| 15 | Banks should have in place effective internal policies, processes, systems and controls to ensure that the appropriate risk weights are assigned to counterparties. Banks must be able to demonstrate to their supervisors that their due diligence analyses are appropriate. As part of their supervisory review, supervisors will make sure that banks have appropriately performed their due diligence analysis, and will take supervisory measures where this has not been done.  | 銀行は相手先銀行に対して適切なリスク・ウェイトを割り当てるために、実効的な内部方針、手続、組織、統制を定めなければならない。銀行は監督当局者に対して、自ら実施したデュー・デリジェンス手続が適切であることを実証できなければならない。当局の検査の一部として、監督当局はその銀行が適切にデュー・デリジェンス分析を実施していることを確かめるとともに、それがなされていない場合には監督権限を行使しなければならない。  |

(出所) BIS の「d347」P28

# 3 IRRBB

## (1) IRRBB規則の公表

### ① 位置付け：「第2の柱」を維持

バーゼル銀行監督委員会(BCBS)は2016年4月21日付で、最終規則「銀行勘定の金利リスク」(原題“Interest rate risk in the banking book”, IRRBB)を公表しました(当資料で、以下「IRRBB規則」)。今回の資料についてBCBSは、2004年に公表した「金利リスクの管理と監督の原則」(原題“Principles for the management and supervision of interest rate risk”)を置き換えるものである(図表3-1-1)としつつ、銀行勘定の金利リスクについては原則として、引き続き「第2の柱」の枠組みで管理することとしています(図表3-1-2)。

#### ■ 図表3-1-1 BCBSによる公表物

| 公表日               | 原題  | タイトル仮訳             | URL   |
|-------------------|---|--------------------|---|
| 2004年7月<br>(日付不詳) | Principles for the Management and Supervision of Interest Rate Risk | 金利リスクの管理と監督の原則     | <a href="http://www.bis.org/publ/bcbs108.pdf">http://www.bis.org/publ/bcbs108.pdf</a>     |
| 2016/04/21        | Standards - Interest rate risk in the banking book                  | 最終規則：銀行勘定における金利リスク | <a href="http://www.bis.org/bcbs/publ/d368.pdf">http://www.bis.org/bcbs/publ/d368.pdf</a> |

位置付け：いずれも「バーゼルⅡ」規制の枠組みにおける「第2の柱」の一つに位置付けられている(なお、トレーディング勘定におけるマーケット・リスク規制については別途、市中協議文書等が公表済み)

(出所) 当社作成

#### ■ 図表3-1-2 IRRBB規則の公表

IRRBBは2004年公表の「IRR原則」にも示された通り、バーゼル規制上の「第2の柱」に位置付けられる

##### 2015年公表の市中協議文書で次の2つの選択肢を提示

- 第1の柱(最低自己資本規制)上のアプローチに変更
- 第2の柱(と第3の柱)のアプローチを維持・強化



結論：IRRBBは引き続き「第2の柱」の枠組みで捕捉することとする  
∴IRRBBの不均一性(heterogeneous)

※ただし：市場金利が歴史的な低水準から正常化する過程におけるIRRBBの重要性に鑑み、次の通り、「強化された第2の柱アプローチ」(enhanced Pillar 2 approach)を採用する

その銀行のIRRBBに対する管理方針(特にショック/ストレス・シナリオ)、金利リスクのモデル化方針、内部測定システム(internal measurement systems, IMS)に対するガイダンスの強化

各国の金融規制当局に対し、個別の銀行が有するIRRBBエクスポージャーの度合いや管理レベル等を測定することを義務付ける

株主資本への影響度合い( $\Delta E V E$ ) / 純金利収益( $\Delta N I I$ )への影響度合い等に関するディスクロージャー規制の強化

各国の金融規制当局に対し、「アウトライヤー銀行」の定義を公表することを義務付ける。また、「アウトライヤー」基準を「 $\Delta E V E$ がTier 1資本の15%を超える銀行」にまで厳格化する

適用対象：バーゼルⅡの枠組みに従い、国際的に活動する大規模な銀行に対して連結ベースで適用するが、国際的に活動していない金融機関に対する適用方法は各国の規制当局が決定する

適用時期：新規制は2018年から導入する

(出所) IRRBB文書第1項～第7項より当社作成

## ② 全体図

BCBSが公表した「IRRBB規則」はPDFで51ページに達するものですが、付属文書(Annex 1/Annex 2)を除外した全体図は図表 3-1-3 の通りです。

■ 図表 3-1-3 IRRBB規則の全体図

|     | 表題   | 仮訳                              |
|-----|--|---------------------------------|
| I   | Introduction on IRRBB  | IRRBBの導入                        |
|     | 1. Definition of IRRBB   | 1. IRRBBの定義                     |
|     | 2. Credit spread risk in the banking book (CSRBB)                  | 2. 銀行勘定のクレジット・スプレッド・リスク (CSRBB) |
|     | 3. Economic value and earnings-based measures                      | 3. 経済価値と利益の測定尺度                 |
| II  | The revised IRR Principles   | 見直し後のIRR原則                      |
|     | 1. Principles for banks<br>2. Principles for supervisors           | 1. 銀行に対する原則<br>2. 監督当局に対する原則    |
| III | Scope of application and implementation timeline                   | 適用と推進の時間軸                       |
| IV  | The standardised framework   | 標準的枠組み                          |
|     | 1. Overall structure of the standardised framework                 | 1. 標準的枠組みの全体構造                  |
|     | 2. Components of the standardised framework                        | 2. 標準的枠組みの構成要素                  |
|     | 3. Treatment of NMDs   | 3. NMDの取扱い                      |
|     | 4. Treatment of positions with behavioural options other than NMDs | 4. NMDを除く行動オプションの取扱い            |
|     | 5. Automatic interest rate options                                 | 5. 自動金利オプション                    |
|     | 6. Calculation of the standardised EVE risk measure                | 6. 標準的EVEリスク尺度の算出               |

(出所) IRRBB規則目次より当社作成

## ③ 略語集

IRRBB規則には多くの略語が出現しますが、その主なものは図表 3-1-4 の通りです。

■ 図表 3-1-4 IRRBB規則の略語集

| 略語    | 原文   | 仮訳                   | 初出箇所 |
|-------|--|----------------------|------|
| NMDs  | non-maturity deposits                        | 期限のない預金              | 第44項 |
| EVE   | economic value of equity                     | 株主資本経済価値             | 第4項  |
| NII   | net interest income                          | 純金利収入                | 第4項  |
| IRRBB | interest rate risk in the banking book       | 銀行勘定の金利リスク           | 表紙   |
| CSRBB | credit spread risk in the banking book       | 銀行勘定のクレジット・スプレッド・リスク | 第10項 |
| IMS   | internal measurement systems                 | 内部測定システム             | 第4項  |
| MIS   | management information systems               | 経営情報システム             | 第17項 |
| ALCO  | an asset and liability management committee  | ALM委員会               | 第20項 |
| ICAAP | Internal Capital Adequacy Assessment Process | 内部資本適切性評価プロセス        | 第35項 |

(出所) IRRBB規則より当社作成

## (2) IRRBB規則の概要

### ① IRRBBとCSRBB

IRRBB規則の中で重要な概念である「IRRBBの三つの構成要素」と「CSRBB」について概観してみましょう（図表 3-2-1）。

■ 図表 3-2-1 IRRBBとCSRBB

|  |                          |   |
|--|--------------------------|---|
| 銀行勘定における金利リスク (IRRBB)  | ギャップ・リスク<br>gap risk     | 銀行勘定の期間構造 (term structure) から生じるリスク。「パラレル・リスク」と「ノン・パラレル・リスク」から構成される                 |
|  | ベース・リスク<br>basis risk    | ベース (同一年限であっても異なる金利指標を参照しているような場合の参照指標) の違いから生じるリスク                                 |
|  | オプション・リスク<br>option risk | 銀行の資産・負債・オフバランス項目に組み込まれたオプション性の要素であって、銀行の顧客が金利の期間構造を決定するもの*                         |
| 銀行勘定におけるクレジット・スプレッド・リスク (CSRBB)  |                          | IRRBBの3つの要素に加え、銀行が監視・評価しなければならないリスクであって、資産・負債のスプレッド・リスクのうちIRRBBや期待損失モデル等で説明できない部分全て |
| ※ オプション・リスクは自動オプション・リスク (automatic option risk) と行動オプション・リスク (behavioural option risk) から構成される |                          |   |

(出所) IRRBB文書第9項～第10項

### ② EVEベースとNIIベース

従来、バーゼルII規制上の「銀行勘定における金利リスク量」は自己資本に対する比率により規制されていましたが、今回の「IRRBB規則」では、自己資本に対する経済価値変動 (EVE) と純金利収入 (NII) の二つの尺度から金利リスク量の測定・管理が求められます (図表 3-2-2)。

■ 図表 3-2-2 EVEとNII

| ■ ΔEVE |   | ■ ΔNII |  |
|--------|---|--------|--|
| #      | 概要  | #      | 概要   |
| a      | エクスポージャー水準の測定に当たり自身の資本を除外する   | a      | 銀行勘定における金利感応度のある全ての資産・負債・オフバラ項目から生じる予想キャッシュ・フロー (コマーシャル・マージンその他のスプレッドを含む) を含める                   |
| b      | 金利感応度のある銀行勘定の全ての資産・負債・オフバラ項目から発生するキャッシュ・フローを含める<br>⇒ コマーシャル・マージンその他のスプレッドをキャッシュ・フローに含めたか除外したかについて開示する           | b      | ΔNIIは額面、金利更改期間、スプレッド構成要素といった面から同一の性質を有する新キャッシュ・フローにより置換される定常の“constant” バランス・シートを前提に測定されなければならない |
| c      | キャッシュ・フローをリスク・フリー金利 (又はコマーシャル・マージン等のスプレッドを含めたリスク・フリー金利) で割り引く<br>⇒ リスクフリー金利にコマーシャル・マージンその他のスプレッドを含めた場合はその旨を開示する | c      | ΔNIIについては、12カ月ロールの将来金利収入における差分を開示する必要がある   |
| d      | ΔEVEは「静的バランス・シート」 (“run-off balance sheet”) の仮定で計測されなければならない  |        |  |

(出所) IRRBB規則第70項

③ 12の原則

IRRBB規則に示された「IRRBBの12の原則」とその仮訳を確認しておきましょう（図表 3-2-3）

■ 図表 3-2-3 IRRBBの12の原則

|            | 原文 | 当社による仮訳  |   |
|------------|----|--|---|
| 銀行に対する原則   | 1  | IRRBB is an important risk for all banks that must be specifically identified, measured, monitored and controlled. In addition, banks should monitor and assess CSRBB.   | IRRBBは全ての銀行にとって、明確に特定され、測定され、監視され、統制されるべき重要なリスクである。これに加え、銀行はCSRBBについても監視し、評価しなければならない。  |
|            | 2  | The governing body of each bank is responsible for oversight of the IRRBB management framework, and the bank's risk appetite for IRRBB. Monitoring and management of IRRBB may be delegated by the governing body to senior management, expert individuals or an asset and liability management committee (henceforth, its delegates). Banks must have an adequate IRRBB management framework, involving regular independent reviews and evaluations of the effectiveness of the system. | 各銀行の統治主体はIRRBBの管理上の枠組みとその銀行のIRRBBに対するリスク選好を監督する責任を持つ。統治主体は、IRRBBの監視と管理を上級管理職、専門的な個人、ALM委員会（以下「委嘱先」）に対して委嘱することができる。銀行は適切なIRRBB管理枠組みを有し、通常の独立レビューと連携し、システム全体の有効性を評価しなければならない。                           |
|            | 3  | The banks' risk appetite for IRRBB should be articulated in terms of the risk to both economic value and earnings. Banks must implement policy limits that target maintaining IRRBB exposures consistent with their risk appetite.   | 銀行はIRRBBに対する自らのリスク選好を、経済価値・収益両面のリスクという観点から明文化しなければならない。銀行は政策的制限を設け、IRRBBエクスポージャーをそのリスク選好に沿って維持しなければならない。  |
|            | 4  | Measurement of IRRBB should be based on outcomes of both economic value and earnings-based measures, arising from a wide and appropriate range of interest rate shock and stress scenarios.  | IRRBBの測定にあたっては、広範囲で適切な金利ショックやストレス・シナリオ等に基づいて測定される経済価値上、収益上の影響という、双方の観点に立脚する必要がある。   |
|            | 5  | In measuring IRRBB, key behavioural and modelling assumptions should be fully understood, conceptually sound and documented. Such assumptions should be rigorously tested and aligned with the bank's business strategies.   | IRRBBの測定に当たり、鍵となる行動上・モデル上の仮定が完全に理解され、概念的に安定し、そして文書化される必要がある。これらの仮定は厳密に検証され、その銀行の経営戦略と同列に位置付けられなければならない。   |
|            | 6  | Measurement systems and models used for IRRBB should be based on accurate data, and subject to appropriate documentation, testing and controls to give assurance on the accuracy of calculations. Models used to measure IRRBB should be comprehensive and covered by governance processes for model risk management, including a validation function that is independent of the development process.  | IRRBBに用いられる測定システムとモデルは正確なデータに立脚しなければならない。また、計算の正確性に欠く将来を与えるための適切な文書化、検証、統制に従う。IRRBBの測定に用いられるモデルは包括的かつモデル・リスク・マネジメントの対象となっていることが必要であり、これらには開発プロセスから独立した評価機能も含まれる。                                      |
|            | 7  | Measurement outcomes of IRRBB and hedging strategies should be reported to the governing body or its delegates on a regular basis, at relevant levels of aggregation (by consolidation level and currency).  | IRRBBの影響額の測定やヘッジ戦略は統治主体かその委嘱先に対して、関連性のあるレベル（連結レベル、あるいは通貨ごと）での統合を伴った上で、定期的に報告されなければならない。   |
|            | 8  | Information on the level of IRRBB exposure and practices for measuring and controlling IRRBB must be disclosed to the public on a regular basis  | IRRBBエクスポージャーの水準に関する情報やIRRBBの評価・統制の実務は定期的に一般に公開されなければならない。  |
|            | 9  | Capital adequacy for IRRBB must be specifically considered as part of the Internal Capital Adequacy Assessment Process (ICAAP) approved by the governing body, in line with the bank's risk appetite on IRRBB.   | IRRBBに対する資本の適切性は、統治主体が承認する内部資本適切性評価プロセス（ICAAP）において明確に考慮され、その銀行のIRRBBに対するリスク選好と整合している必要がある。  |
| 監督当局に対する原則 | 10 | Supervisors should, on a regular basis, collect sufficient information from banks to be able to monitor trends in banks' IRRBB exposures, assess the soundness of banks' IRRBB management and identify outlier banks that should be subject to review and/or should be expected to hold additional regulatory capital.   | 監督主体は、銀行業におけるIRRBBエクスポージャーのトレンドを監視し、銀行業におけるIRRBB管理の健全性を評価し、慎重な監視又は追加資本が必要なアウトライヤー銀行を特定することができるよう、各銀行から定期的に十分な情報を収集する必要がある。  |
|            | 11 | Supervisors should regularly assess banks' IRRBB and the effectiveness of the approaches that banks use to identify, measure, monitor and control IRRBB. Supervisory authorities should employ specialist resources to assist with such assessments. Supervisors should cooperate and share information with relevant supervisors in other jurisdictions regarding the supervision of banks' IRRBB exposures.  | 監督当局は定期的に銀行業のIRRBB及び各銀行がIRRBBの特定、測定、監視、統制を行う手法の実効性を評価しなければならない。監督当局はこれらの評価を行うにあたり、専門家を補助者として利用する必要がある。監督当局は銀行業のIRRBBエクスポージャーを巡り、その他の法域における監督当局と協働し、情報を共有する必要がある。                                      |
|            | 12 | Supervisors must publish their criteria for identifying outlier banks. Banks identified as outliers must be considered as potentially having undue IRRBB. When a review of a bank's IRRBB exposure reveals inadequate management or excessive risk relative to capital, earnings or general risk profile, supervisors must require mitigation actions and/or additional capital.   | 各監督当局はアウトライヤーの要件を公表しなければならない。アウトライヤーとして特定された銀行は潜在的に過度なIRRBBを保持しているものと位置付けられる。ある銀行のIRRBBエクスポージャーのレビューにより、管理が不適切であり、又は資本・収益・一般リスク・プロファイルに対比して過度なリスクを取っていると判断された場合、監督当局は必要に応じてリスクの圧縮ないし資本増強等を命じなければならない。 |

（出所） BCBS。なお、訳は当社作成

## 4 TLAC

### (1) TLACに関する規則の公表

金融安定化理事会（Financial Stability Board, FSB）は2015年11月9日、「総損失吸収力」（Total Loss-Absorbing Capacity, TLAC）に関する最終合意文書『ローバルなシステム上重要な銀行の破綻時の損失吸収及び資本再構築に係る原則』（Principles on Loss-absorbing and Recapitalisation Capacity of G-SIBs in Resolution / Total Loss-absorbing Capacity (TLAC) Term Sheet）を公表しました。また、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）は同日、市中協議文書「TLAC保有」（TLAC Holdings）を公表。わが国でも金融庁が2016年4月15日に「金融システムの安定に資する総損失吸収力（TLAC）に係る枠組み整備の方針について」と題する資料を公表しています。

#### ■ 図表4-1 TLACに関する公表物

| 公表日       | 公表主体              | 公表物  | 概要   |
|-----------|-------------------|--|--|
| 2015/11/9 | 金融安定化理事会（FSB）     | Principles on Loss-absorbing and Recapitalisation Capacity of G-SIBs in Resolution / Total Loss-absorbing Capacity (TLAC) Term Sheet | G-SIBs に対する損失吸収力等に関するG20の最終合意              |
| 2015/11/9 | バーゼル銀行監督委員会（BCBS） | Consultative Document “TLAC Holdings”  | ある銀行が他の銀行のTLACを保有している場合にTier 2から控除するなどの取扱い |
| 2016/4/15 | 金融庁               | 金融システムの安定に資する総損失吸収力（TLAC）に係る枠組み整備の方針について   | 銀行持株会社形態を採る本邦G-SIBsの秩序ある処理等                |

（出所） 当社作成

なお、これらのうち、BCBSが公表した文書については、コメント期日は2016年2月12日までとされました。

### (2) FSB公表物の概要

#### ① TLACの趣旨

FSBが2015年11月9日に公表した文書（以下「FSB文書」）では、FSBがTLACで合意した趣旨が記載されています。

#### ■ 図表4-2-1 TLACの趣旨

There must be sufficient loss-absorbing and recapitalisation capacity available in resolution to implement an orderly resolution that minimises any impact on financial stability, ensures the continuity of critical functions, and avoids exposing taxpayers (that is, public funds) to loss with a high degree of confidence.

金融の安定に与える影響の最小化と重要な機能の継続の確保、そして納税者（公的資金）の負担を防ぐような秩序ある処理を可能にするために、破綻処理時には吸収・資本増強能力が十分に備わっていることが必要である



- 各金融機関がFSBの定める共通の最低水準以上の「当該金融機関に適用される最小TLAC水準」（Minimum TLAC requirement）を満たす必要がある
- 最小TLAC水準を設定するに際し、当局は破綻処理前に生じる損失に関する適切な仮定を置くことが必要である
- 破綻処理後も当該企業・グループ（またはその後継企業）は継続的に金融機関としての認可を受ける条件を満たすようにしなければならない

（出所） FSB文書（i）（iii）（iv）（v）より当社作成

## ② TLACタームシート

FSB文書付属の「TLACの条件書」(Total Loss-absorbing Capacity (TLAC) term sheet) から主要な記載内容を抜粋してみます。

### ■ 図表 4-2-2 タームシート抜粋

| 条項と仮訳  | 記載内容抜粋  | 意訳  |
|--|---|---|
| 2. COVERED FIRMS<br>(対象企業)                         | Global systemically important banks (G-SIBs)  | グローバルにシステム上重要な銀行  |
| 3. MINIMUM EXTERNAL TLAC REQUIREMENT<br>(最小外部TLAC) | <ul style="list-style-type: none"> <li>The Minimum TLAC requirement will be applied to each resolution entity within each G-SIB</li> <li>A resolution entity and any entities that are owned or controlled by a resolution entity either directly ("direct subsidiaries") or indirectly through subsidiaries of the resolution entity ("indirect subsidiaries") and that are not themselves resolution entities or subsidiaries of another resolution entity form a resolution group.</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最小TLAC要求は各G-SIB内の処理対象企業(resolution entity)に対して適用される</li> <li>● 処理対象企業にはその企業と、それ自身が処理対象企業ではない場合の直接子会社、間接子会社が含まれる</li> </ul>   |
| 4. CALIBRATION OF MINIMUM TLAC (最小TLAC水準の調整)       | <ul style="list-style-type: none"> <li>Minimum TLAC must be at least 16% of the resolution group's RWAs ("TLAC RWA Minimum") as from 1 January 2019 and at least 18% as from 1 January 2022. This requirement does not include any applicable regulatory capital (Basel III) buffers, which must be met in addition to the TLAC RWA Minimum.</li> <li>Minimum TLAC must be at least 6% of the Basel III leverage ratio denominator ("TLAC LRE Minimum") as from 1 January 2019. As from 1 January 2022, the TLAC LRE Minimum must be at least 6.75% of the Basel III leverage rati denominator. This requirement does not limit authorities' powers to set a requirement above the common minimum or put in place buffers in addition to the TLAC LRE Minimum.</li> </ul> | <p>最小TLACの規制</p> <p><u>リスク・アセット&lt;RWA&gt;ベース</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年1月以降：16%</li> <li>● 2022年1月以降：18%</li> </ul> <p><u>レバレッジ比率&lt;LRE&gt;ベース</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年1月以降：6%</li> <li>● 2022年1月以降：6.75%</li> </ul> <p>⇒ ただし各国規制当局がLRE水準をこれより厳格化することを妨げるものではない</p> |

(出所) FSB文書より当社作成

### ■ 図表 4-2-3 「タームシート」上のTLACの構成要素と条件

#### 規制資本のうちTLAC算入可能な項目の条件 (第6項)

- 普通株式等Tier 1資本 (CET 1)
- CET 1以外の規制資本であって、損失吸収条項が付されているもの
- CET 1以外の規制資本であって、対象企業の子会社が発行したもの
- 子会社が発行した規制資本商品であって当局の認可を受けたもの
- 2022年1月以降は次の項目を除きタームシート第7～14項の要件を満たさなければならない：
  - 子会社が発行したCET 1資本
  - 協同組織金融機関が発行した規制資本商品であって一定要件を満たすもの

#### TLACであるための条件 (第9項)

- 払込済であること
- 無担保であること
- 破綻処理時に相殺等の対象となるものではないこと
- 満期が1年以上先であるか、永久債(償還日の定めがない商品)であること
- 保有者が償還を要求することができないこと
- 破綻処理の対象企業が直接・間接に保有していないこと

※ 次のような項目はTLACから除外される (第10項)

預金保険の付された預金、一覽払預金、1年未満の預金、デリバティブ負債、仕組債等のデリバティブが組み込まれた商品、破産法制上無担保の債権者に優先するような債務、発行国の法制上ペイルインから除外されているような商品、当局による償却や株式転換に対し重要な法的訴訟リスクが存在するような商品

(出所) FSB文書付属「タームシート」

### ③ 外部TLACの最低水準

FSB文書によると、G-SIBsは損失吸収力などがある「TLAC適格商品」を一定水準以上確保することが求められています（図表 4-2-4）。

■ 図表 4-2-4 外部TLACの最低水準（新興市場諸国以外に本部がある場合）

|                   | 2019年1月1日～ | 2022年1月1日～ |
|-------------------|------------|------------|
| <b>RWAベース</b>     | 16%以上      | 18%以上      |
| ※ 預金保険などの仕組みがある場合 | 2.5%まで勘案可能 | 3.5%まで勘案可能 |
| <b>レバレッジ・ベース</b>  | 6%以上       | 6.75%以上    |

（出所） FSB文書「タムシート」第7項、第21項等より当社作成

### ④ 内部TLACと重要な子会社

FSB文書では、「内部TLAC」と「重要なサブ・グループ」についても言及があります（図表 4-2-5）。

■ 図表 4-2-5 内部TLACと重要なサブ・グループ

|  |   |
|--|---|
| <b>内部TLAC (Internal TLAC) 【第16項】</b>               | 趣旨：クロス・ボーダー型の破綻処理に際し、現地・本国双方の当局が適切な損失吸収・再資本化で協力することを容易にすること   |
| <b>重要なサブ・グループ (a material sub-group) 【第16～17項】</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>a. それ自身が破綻処理対象金融機関ではないこと</li> <li>b. 他のG-SIBのサブ・グループを構成する企業ではないこと</li> <li>c. 破綻処理対象金融機関の本国外の同一法域に所在する企業グループであること</li> <li>d. 当該G-SIBグループにとって、次の4つのいずれかであること <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスク・アセットベースで5%以上を占めていること</li> <li>● 営業収益の5%以上を占めていること</li> <li>● レバレッジ・エクスポージャーの5%以上を占めていること</li> <li>● CMG（危機管理グループ）により重要な機能を担っていると認定されていること</li> </ul> </li> </ul> |
| <b>必要な内部TLAC水準 【第18項】</b>                          | 各「重要なサブ・グループ」は外部TLACの必要水準に対して75～90%の水準の内部TLACを備えていなければならない  |

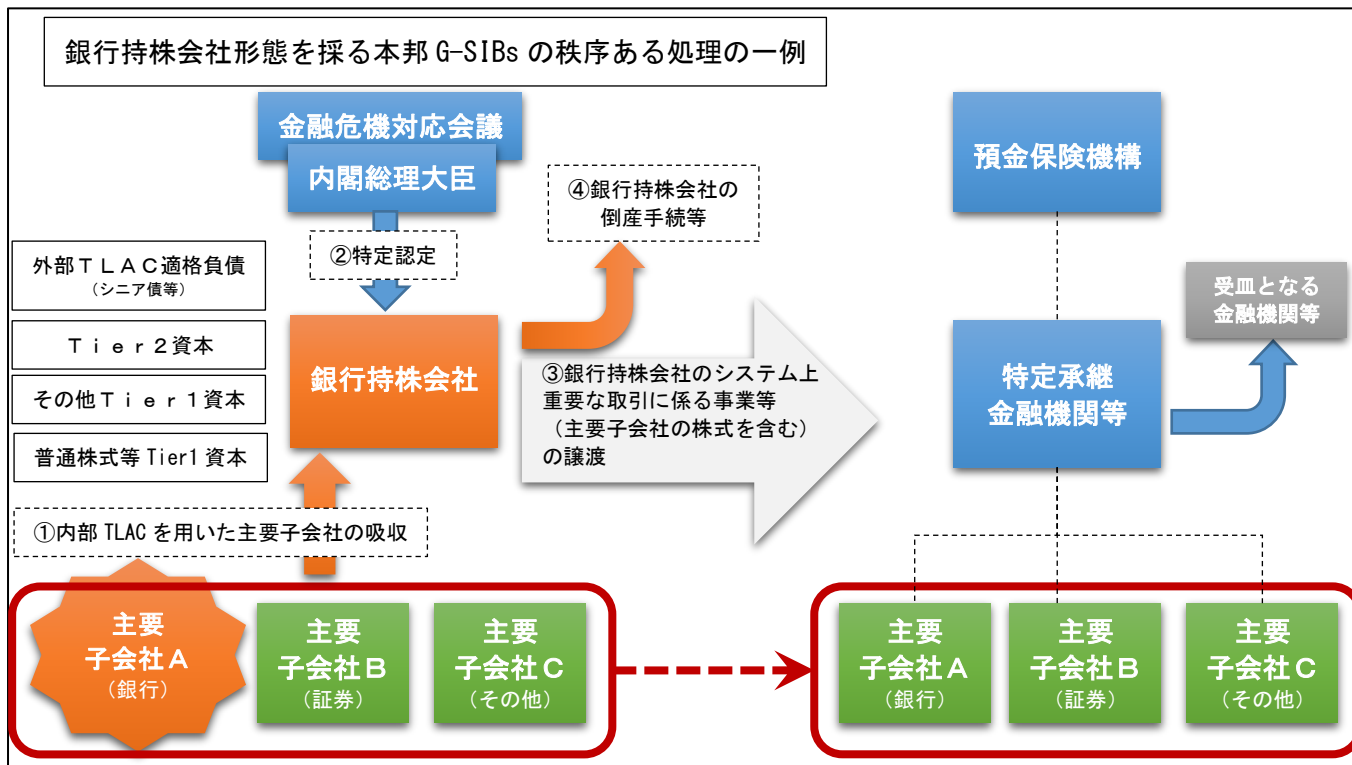
（出所） FSB文書付属「タムシート」第16項～第18項



### (3) 金融庁文書

金融庁が2016年4月15日付で公表した資料の中には、「銀行持株会社形態を採る本邦G-SIBsの秩序ある処理の一例」と題する図表が含まれています。

■ 図表 4-3 金融庁の公表した「参考図」

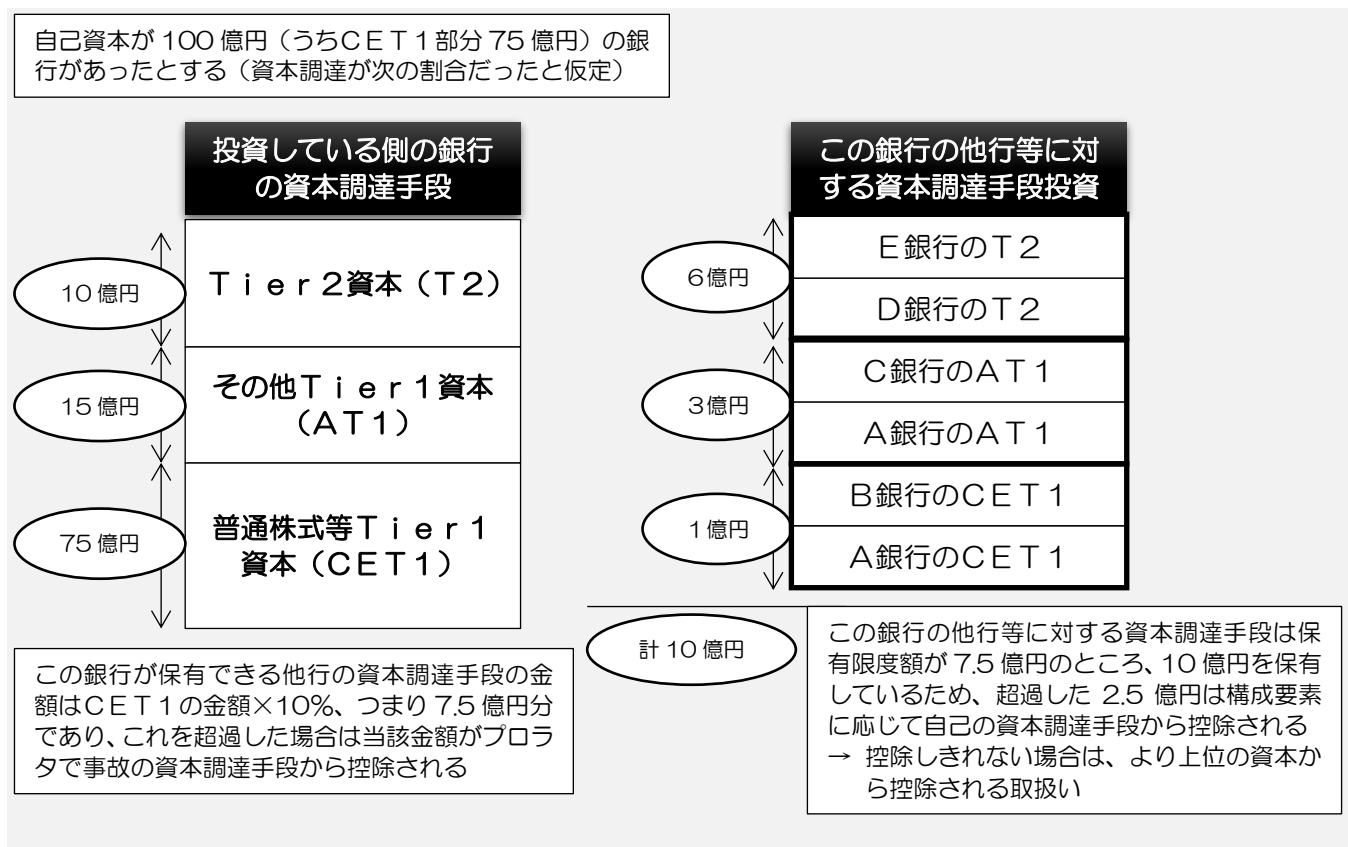


(出所) 金融庁ウェブサイト

### (4) BCBS文書

BCBSは、銀行等が他のG-SIBsのTLAC商品を保有している場合に、自らの発行したTier 2資本から当該金額を控除することを柱とする市中協議文書を2015年11月9日付で公表しています(以下「BCBS文書」。なお、「相互相殺アプローチ」の概要については図表4-4-1をご参照ください)。

■ 図表4-4-1 『相互相殺アプローチ』 corresponding deduction approach



(出所) 「バーゼルⅢテキスト」第81項等より当社作成

今回のBCBSテキストでは、この「相互相殺アプローチ」を含め、「いくつかのアプローチ」を提案していません(図表4-4-2)。

| 項目                             | 概要   |
|--------------------------------|--|
| T2からの控除(Tier 2 deduction)      | 既存の「相互相殺アプローチ」をベースに、銀行が保有するG-SIBs向けのTLAC債を自行のTier 2資本から控除させる取扱い  |
| CET1からの控除(CET1 deduction)      | TLACの損失吸収条項発時に銀行が損失を蒙ることに鑑み、CET1から控除させる取扱い   |
| 懲罰的リスク・ウェイト(Penal risk weight) | 銀行が保有するTLACに対して保守的なリスク・ウェイトを適用するという取扱い   |
| 大口与信規制(Large exposure limits)  | 2019年以降導入される大口エクスポージャー規制にあわせて、個別のG-SIBに対する投資規制を導入するなどの取扱い  |
| 銀行の種別により対応を分ける考え方              | G-SIBsに該当する銀行の場合は自己資本控除、それ以外の銀行に対しては大口与信規制(Deduction for G-SIBs and large exposures limit for non-G-SIBs)とするなど、銀行の種別により対応を変えるアプローチ |

(出所) BCBSテキスト第2項、第3.1~3.4項

## 5 マーケット・リスク

### (1) 現行の取扱い

#### ① 金融庁・銀行告示の条文構造

銀行等の金融機関に対して適用される「自己資本比率規制」の「分母項目」を構成する項目は、信用リスク・アセットなどの3項目です（図表 5-1-1）。当資料作成日時点において、これらの3項目については、いずれも市中協議文書や最終規則等が公表されています（図表 5-1-2）。

#### ■ 図表 5-1-1 自己資本比率の計算式

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{総自己資本の額【国際統一基準行】または自己資本の額【国内基準行】}}{\text{信用リスク・アセットの額の合計額} + \text{マーケット・リスク相当額の合計額} \div 8\% + \text{オペレーショナル・リスク相当額の合計額} \div 8\%}$$

(出所) 当社作成

#### ■ 図表 5-1-2 自己資本の「分母」の見直し

| 区分   | 信用リスク・アセット部分：<br>⇒市中協議文書段階             | マーケット・リスク部分：<br>⇒2016年1月に最終規則化                  | オペリスク部分：<br>⇒市中協議文書段階               |
|------|--|---|-------------------------------------|
| 主な項目 | 標準的手法（SA）の見直し<br>内部格付手法（IRB）の<br>資本フロア | トレーディング勘定の見直し<br>標準的方式（SA）、内部モデル<br>方式（IMA）の見直し | 基礎的手法、粗利益配<br>分手法等の見直し、掛<br>目の水準調整等 |

(出所) 当社作成

日本法に準拠して設立された預金取扱金融機関に対しては、監督当局（銀行、信用金庫、信用組合、銀行持株会社等の場合は金融庁）がそれらの設立準拠法に従い、自己資本比率の計算方法に関する詳細を「告示」の形で公表しています。このうち「銀行告示」の構造は、図表 5-1-3 の通りです。

#### ■ 図表 5-1-3 金融庁「自己資本比率告示」の構造

| 章番号   | 章タイトル                | 該当条文          | 備考           |
|-------|----------------------|---------------|--------------|
| 第1章   | 定義                   | 1             | —            |
| 第2章   | 国際統一基準（連結自己資本比率）     | 2～13          | 自己資本比率の分子部分  |
| 第3章   | 国際統一基準（単体自己資本比率）     | 14～24         |              |
| 第4章   | 国内基準（連結自己資本比率）       | 25～36         |              |
| 第5章   | 国内基準（単体自己資本比率）       | 37～47         |              |
| 第6章   | 信用リスクの標準的手法          | 48～139の2      |              |
| 第7章   | 信用リスクの内部格付手法         | 140～245       |              |
| 第8章   | 証券化エクスポージャーの取扱い      | 246～270       |              |
| 第8章の2 | CVAリスク               | 270の2～270の5の2 |              |
| 第8章の3 | 中央清算機関関連エクスポージャーの取扱い | 270の6～270の9   |              |
| 第9章   | マーケット・リスク            | 271～302の14    | マーケット・リスク相当額 |
| 第10章  | オペレーショナル・リスク         | 303～320       | オペレーショナル・リスク |
| 第11章  | 雑則                   | 321～322       | —            |

(出所) 銀行告示（平成18年金融庁告示第19号）。ただし「備考」欄は当社による追加

## ② マーケット・リスク相当額不算入の特例

日本の銀行告示上、マーケット・リスク相当額には不算入の特例が設けられています（図表 5-1-4）。

■ 図表 5-1-4 マーケット・リスク相当額不算入の特例

| 項目                      | 要件（抜粋）   | 備考   |
|-------------------------|--|--|
| 算出基準日における 1000 億円／10%基準 | 直近の期末（中間期末を含む）から自己資本比率の算出を行う日（算出基準日）までの間における<br>● 特定取引勘定の資産及び負債の合計額のうち最も大きい金額が 1000 億円未満であり、かつ、<br>● 直近の期末の総資産の 10%未満であること | ● 特定取引資産からは証券化取引を目的として保有している資産、CVAリスク相当額の算出に反映された取引等を除く<br>● 特定取引勘定設置銀行以外の銀行は「特定取引勘定の資産」を「商品有価証券勘定」、「特定取引勘定の負債」を「売付商品債券勘定」と読み替える |
| 期末日における 1000 億円／10%基準   | 算出基準日が期末の場合、当該算出基準日における特定取引勘定の資産及び負債の合計額が 1000 億円未満であり、かつ、当該算出基準日における総資産の 10%未満であること                                       |  |
| 算入実績がないこと               | 直近の算出基準日において自己資本比率の計算式にマーケット・リスク相当額を算入していないこと  | —  |

（出所） 銀行告示第 4 条、第 16 条、第 27 条、第 39 条

## ③ マーケット・リスク相当額の算出対象

マーケット・リスク相当額を自己資本比率の計算式に算入している場合、その対象は「トレーディング勘定」には限られません。

■ 図表 5-1-5 マーケット・リスク相当額の算出対象

| 区分        | 対象   | 備考   |
|-----------|--|--|
| トレーディング勘定 | 特定取引勘定設置銀行の場合は特定取引勘定の資産及び負債、それ以外の該銀行及び連結子法人等における特定取引等に係る資産及び負債 | 「特定取引」の範囲は「銀行法施行規則第 13 条の 6 の 3 第 2 項」の特定取引と「その他これに類似する取引」 |
| バンキング勘定   | 外国為替リスク又はコモディティ・リスクを伴う取引又は財産                                   | バンキング勘定もマーケット・リスク相当額の算出対象となることがある                          |

（出所） 銀行告示第 11 条等

また、「特定取引」の定義は銀行法施行規則第 13 条の 6 の 3 第 2 項に列挙されています。

■ 図表 5-1-6 特定取引の範囲

| 該当号      | 銀行法施行規則の記載内容抜粋   |   |
|----------|--|---|
| 本文       | 銀行が金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る目的又は当該目的で行う取引により生じ得る損失を減少させる目的で自己の計算において行う市場デリバティブ取引及び外国市場デリバティブ取引のうち有価証券関連デリバティブ取引に該当するもの以外のもの |   |
| 第 1 号    | 有価証券の売買及び有価証券関連デリバティブ取引（但し一定の制約あり）   | 有価証券とは「国債等（国債、地方債又は政府保証債）」、「資産流動化法上の特定社債券・優先出資証券等」、「社債券」をいう |
| 第 2 号    | 国債等の引受け  | 発行に際して当該国債等の全部又は一部につき他にこれを取得する者がいない場合にその残部を取得する契約を締結する取引に限る |
| 第 3 号    | 「資産流動化法上の特定社債券・優先出資証券等」、「社債券」の引受け  | 発行に際して当該証券等の全部又は一部につき他にこれを取得する者がいない場合にその残部を取得する契約を締結する取引に限る |
| 第 4 号    | 金銭債権の取得又は譲渡  | 金銭債権とは、譲渡性預金の預金証書、コマーシャル・ペーパー、貸付債権信託の受益権証書、円建銀行引受手形等        |
| 第 4 号の 2 | 短期社債等の取得又は譲渡   | —   |
| 第 5 号    | 店頭デリバティブ取引のうち有価証券関連デリバティブ取引に該当するもの以外のもの  |   |
| 第 7 号    | 先物外国為替取引   |   |
| 第 10 号   | 商品デリバティブ取引   |   |
| 第 11 号   | 算定割当量に係る金融等デリバティブ取引（銀行法施行規則第 13 条の 2 の 3 第 1 項第 2 号）   |   |
| 第 13 号   | 一定のオプション取引（銀行法施行規則第 13 条の 2 の 3 第 1 項第 3 号）  |   |
| 第 14 号   | 銀行法第 10 条第 2 項第 16 号の規定により営むことができる有価証券関連店頭デリバティブ取引   |   |
| 第 15 号   | 銀行法第 11 条第 2 号（付随業務）に係る有価証券の売買又は引受け及び有価証券関連デリバティブ取引  |   |
| 第 16 号   | 銀行法第 11 条第 4 号の業務に係る算定割当量の取得又は譲渡   |   |
| 第 17 号   | その他、当該取引又は市場デリバティブ取引及び外国市場デリバティブ取引に類似し、又は密接に関連する取引   |   |

（出所） 銀行法施行規則第 13 条の 6 の 3 第 2 項をもとに当社抜粋・要約

## (2) 最終規則の公表

### ① GHOSプレス・リリース

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（GHOS）は2016年1月11日付のプレス・リリースで、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）によるマーケット・リスクに掛かる新たな規制枠組みを承認したと公表しました（図表5-2-1）。

#### ■ 図表5-2-1 GHOSによるプレス・リリースの骨子

BCBSの上位機関であるGHOSは、1月10日、マーケット・リスクに係る新たな規制枠組みを承認した  
⇒ マーケット・リスクに関する基準の抜本的見直しは、バーゼルⅢの改革における主要な要素の一つである

##### <2019年に適用が開始される新たな規制枠組みにおける主な改善点>

- 銀行勘定とトレーディング勘定の境界の見直しにより、規制裁定の余地を縮小
- 内部モデル方式の見直しにより、より整合的かつ包括的にリスクを補足
- 内部モデルの承認プロセスを改善したほか、ヘッジ及びポートフォリオ分散効果をより保守的な形で認識
- 標準的方式の見直しにより、内部モデル方式の信頼できるフォールバック及びフロアとして機能させ、かつ銀行及び地域間でのマーケット・リスクの報告の整合性及び比較可能性の向上を促進

GHOSは、BCBSが、リスク・アセットの計測における過度なばらつきの問題を解消するための作業を2016年末までに完了させることについて合意した

##### <2016年末までの作業計画>

- 特定のリスクに係る内部モデル手法の廃止（オペレーショナル・リスクにおける先進的計測手法の廃止等）についての市中協議
- 信用リスクに係る内部モデルの利用について、特にフロアの使用を通じた追加的な制約についての市中協議

GHOSは、リスク・ベースの（自己資本比率）規制枠組と資本フロアのデザイン及び水準調整に係るBCBSの提案を、2016年末頃に検討する予定で、BCBSは今年中に定量的影響度調査を行う予定。

GHOSはレバレッジ比率について、Tier 1資本による自己資本の定義に基づき、最低水準を3%とすべきことについて合意し、グローバルなシステム上重要な銀行に対する追加的な要件についても議論を行った  
⇒ 2018年1月1日までにレバレッジ比率を第1の柱として実施するために十分な時間を確保すべく、2016年中に水準調整を最終化する予定

（出所） 日本銀行による仮訳（[http://www.boj.or.jp/announcements/release\\_2016/data/rel160112a.pdf](http://www.boj.or.jp/announcements/release_2016/data/rel160112a.pdf)）

プレス・リリースの骨子は図表5-2-2の通りです。

#### ■ 図表5-2-2 GHOSによる2016年1月11日付プレス・リリースの骨子

| 分野                    | ステータス                             | 期日                                     |
|-----------------------|-----------------------------------|--|
| マーケット・リスク規制           | 最終規則の承認が終了                        | 2019年から適用を開始                           |
| 信用リスク・アセットの過度なばらつき    | これから市中協議を実施                       | 2016年末までに作業を完了                         |
| 資本フロア                 | 定量的影響度調査とBCBSの提案                  | 2016年末にBCBS提案を検討                       |
| レバレッジ比率の最終的なデザインと水準調整 | 最低水準を3%にすると合意<br>G-SIBsに対する追加要件検討 | 2016年中に水準調整を完了<br>2018年1月以降「第1の柱」として実施 |

（出所） GHOSプレス・リリースより当社作成

## ② BCBSによる最終規則の公表

BCBSは2016年1月14日付で、最終規則「マーケット・リスクの最低所要自己資本」(原題: Minimum capital requirements for market risk)を公表しました(<http://www.bis.org/bcbs/publ/d352.pdf>)。当資料では、本章においてこれを「最終規則」と称します。概要は図表5-2-3の通りです。

### ■ 図表5-2-3 最終規則「マーケット・リスクの最低所要自己資本」の特徴

| タイトル仮訳と原文  | 原文   | 仮訳  |
|--|--|---|
| <u>バンキング勘定とトレーディング勘定の境界の見直し</u><br>A revised boundary between the trading book and banking book. | A better defined boundary will serve to reduce incentives to arbitrage between the regulatory banking and trading books, while still respecting banks' risk management practices.  | 規制上のバンキング勘定とトレーディング勘定の定義を改善することで、銀行のリスク管理実務を尊重しながらも両勘定間での制度アービトラージを制限する   |
| <u>内部モデル方式の見直し</u><br>A revised internal models approach for market risk.                        | The new approach introduces a more rigorous model approval process that lets supervisors remove internal modelling approval for individual trading desks. It also allows a more consistent identification and capitalisation of material risk factors across banks, and sets constraints on the capital-reducing effects of hedging and diversification. | 新たな方式には当局による承認を厳格化するとともに、当局が内部モデル方式をトレーディング・デスクごとに承認する方式を導入する。これにより銀行相互間での首尾一貫した市場リスク要因の特定と資本賦課が可能となり、さらにヘッジ・分散取引の資本低減効果に制限を設けることができる |
| <u>標準的方式の見直し</u><br>A revised standardised approach for market risk.                             | The standardised approach has been overhauled to make it sufficiently risk-sensitive to serve as a credible fallback as well as a floor to the internal models approach, while still providing an appropriate standard for banks that do not require a sophisticated treatment for market risk.  | 標準的方式については、内部モデル方式(IMA)に対して信頼し得る代替的手段(フォールバック)であると同時にIMAのフロアとしても機能するように再設計され、さらに内部モデルを使わない銀行に対しても適切な規制となるよう見直された                      |
| <u>ストレス時のリスク測定尺度をVaRからESに変更</u><br>A shift from value-at-risk measure of risk under stress.      | Use of expected shortfall will help to ensure prudent capture of "tail risk" and so maintain capital adequacy during periods of significant market stress.   | 予想損失(Expected Shortfall, ES)を利用することで、重大な市場のストレス期間においても十分な資本を維持する健全性を確保する  |
| <u>市場流動性リスクの導入</u><br>Incorporation of the risk of market illiquidity.                           | Varying liquidity horizons are incorporated into the revised standardised and internal model approaches to mitigate the risk of a sudden and severe impairment of market liquidity across asset markets. These replace the static 10-day horizon assumed under VaR for all traded instruments in the current framework.                                  | 様々な流動性階層が、標準的方式、内部モデル方式双方に組み込まれたことで、市場流動性が急に低下した際の減損にも耐性を持たせる。この考え方は、これまでのトレーディング資産に対する10日間VaRの規制を置き換えるものである。                         |

(出所) BCBSウェブサイトのプレス・リリース(<http://www.bis.org/press/p160114.htm>)より当社作成

## コラム：一定金額未満の除外規定

バーゼル銀行監督委員会（BCBS）は、マーケット・リスク規制をどのように考えているのでしょうか？  
今回公表された最終規則（d352 番）の第 7 項では、規制当局が「最低水準未満の銀行に対する例外」を設けることには否定的な考え方が示されていますが、これは「バーゼルⅡ規制」の最終規則（bcbs128）の第 683 項（iv）にあった考え方を引き継ぐものです（図表●）。

### ■図表 除外規定に対する否定的な考え方

|                    | 原文  | 仮訳   |
|--------------------|---|--|
| bcbs128<br>683(iv) | For the time being, the Committee does not believe that it is necessary to allow any de minimis exemptions from the capital requirements for market risk, except for those for foreign exchange risk set out in paragraph 718(xLii) below, because this Framework applies only to internationally active banks, and then essentially on a consolidated basis; all of these banks are likely to be involved in trading to some extent. | 当面、当委員会はマーケット・リスク規制について、第 718 項（xLii）に定める外国為替リスクを除き、一定金額未満の例外を設けることは必要ではないと考えている。その理由は、この規制（バーゼルⅡ）の枠組みは国際的に活動する銀行に対して適用されるものであり、従って連結ベースで規制対象となるが、これらの銀行は一定のトレーディング活動に従事していると想定されるためである。 |
| d352-7             | The Committee does not believe that it is necessary to allow any de minimis exemptions from the capital requirements for market risk, except for those for foreign exchange risk set out in paragraph 4, because the Basel Framework applies only to internationally active banks, and then essentially on a consolidated basis; all of these banks are likely to be involved in trading to some extent.                              | 当委員会はマーケット・リスク規制について、第 4 項に定める外国為替リスクを除き、一定金額未満の例外を設けることは必要ではないと考えている。その理由は、バーゼル規制の枠組みは国際的に活動する銀行に対して適用されるものであり、従って連結ベースで規制対象となるが、これらの銀行は一定のトレーディング活動に従事していると想定されるためである。                 |

### （出所）国際決済銀行

これに対し、わが国の場合、次の 3 つを満した金融機関は、マーケット・リスク相当額については不算入の特例が認められています。

- 直近の期末・中間期末から算出基準日連続で特定取引勘定の資産と負債の合計額（特定取引勘定設置行ではない場合、「商品有価証券勘定」と「売付商品債券勘定」の合計額）が 1000 億円未満であり、かつ、直近の期末の総資産の 10%未満であること
- 算出基準日が期末である場合、当該算出日における特定取引勘定の資産及び負債の合計額（特定取引勘定設置行ではない場合、「商品有価証券勘定」と「売付商品債券勘定」の合計額）が 1000 億円未満であり、かつ、当該算出基準日における総資産の 10%未満であること
- 直近の算出基準日において自己資本比率の計算上、マーケット・リスク相当額に係る額を算入していないこと

この例外規定は、銀行告示上の「国内基準行」に関する条項（第 27 条や第 39 条）だけでなく、「国際統一基準行」に関する条項（第 4 条、第 16 条）にも設けられています。

ここから考えられる金融庁の対応としては、次の通りです。

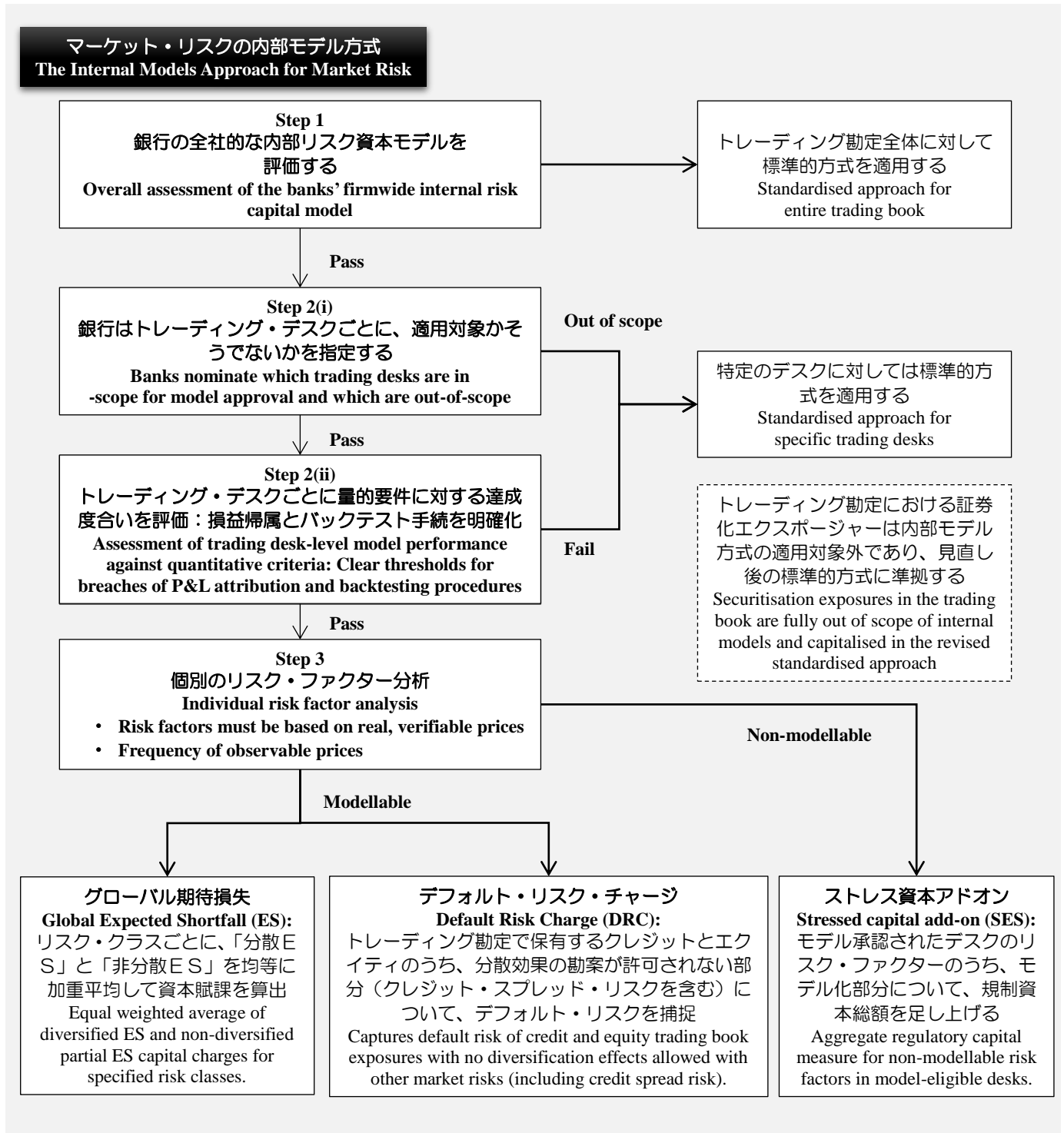
- ① これまでの規制との平仄を合わせる観点から、除外規定（第 4 条、第 16 条、第 27 条、第 39 条）を、今後もそのまま引き継ぐ。
- ② 国際的な規制と平仄を合わせる観点から、国際統一基準行の除外規定（第 4 条、第 16 条）については改廃し、国内基準行の除外規定（第 27 条、第 39 条）については今後もそのまま引き継ぐ。
- ③ 国際的な規制と国内規制の平仄を合わせる観点から、全ての除外規定（第 4 条、第 16 条、第 27 条、第 39 条）を改廃する。

### (3) 最終規則の概要

#### ① 内部モデル方式 (IMA) の見直し

BCBSの最終規則 (P 2) に示された、マーケットリスクの内部モデル方式 (the Internal Model Approach for Market Risk, IMA) の概要は、図表 5-3-1 の通りです。

■ 図表 5-3-1 IMAのフローチャート



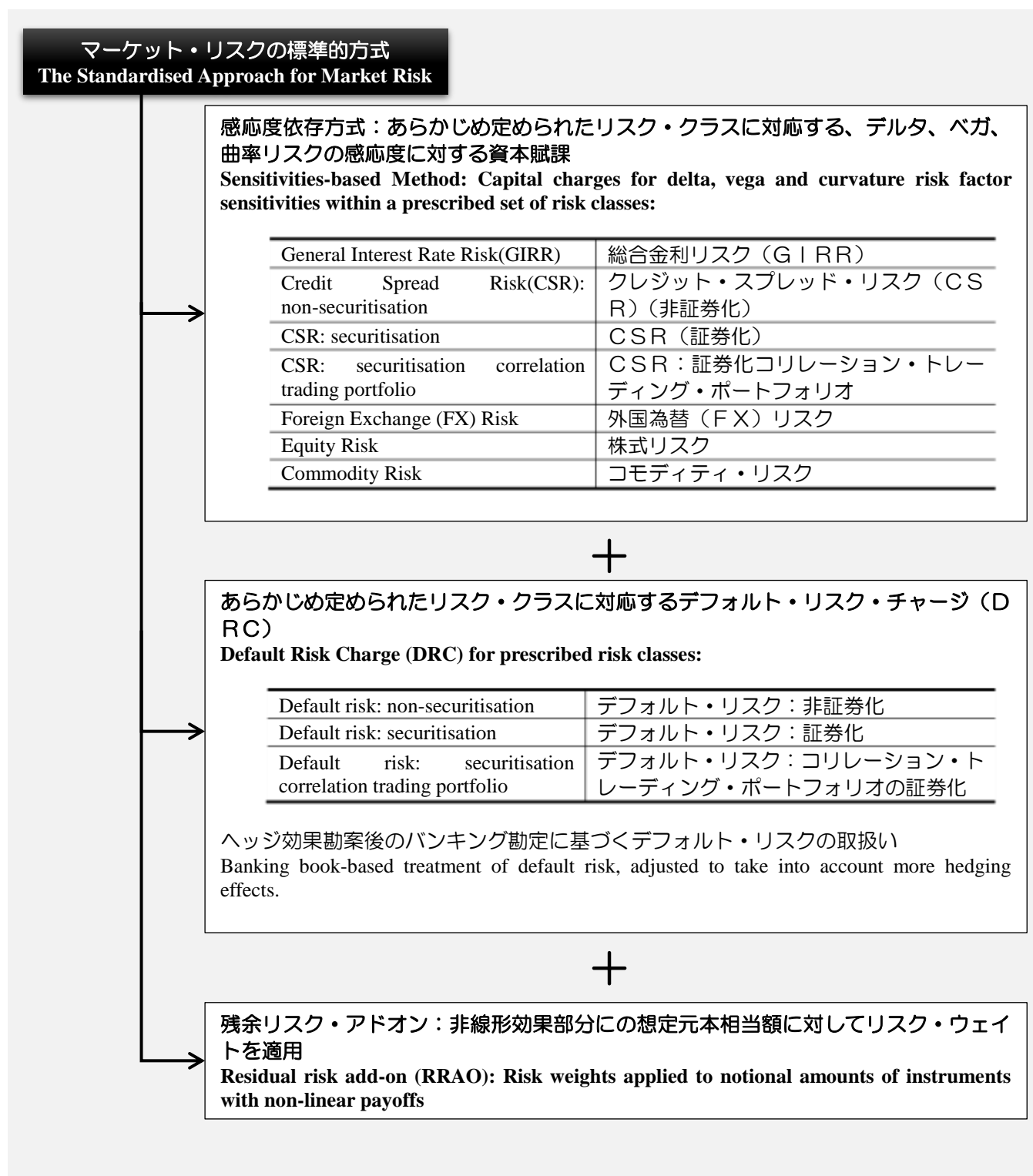
(出所) BCBS最終規則P 2より当社作成



## ② 標準的方式 (SA)

BCBSの最終規則(P3)に示された、マーケットリスクの標準的方式 (the Standardised Approach for Market Risk, SA) の概要は、図表 5-3-2 の通りです。

### ■ 図表 5-3-2 SAの構成



(出所) BCBS最終規則P3より当社作成

### ③ バンキング勘定とトレーディング勘定の境界

今回の規則では、トレーディング勘定に含まれるべき商品の範囲が拡大しています（図表 5-3-3）。

■ 図表 5-3-3 トレーディング勘定に含まれる商品の拡大

| 旧   | 新  |
|---|--|
| <p>マーケット・リスクは「市場価格変動に起因して、オン・バランス項目及びオフ・バランス・ポジションに損失が発生するリスク」と定義される。当規制の対象となる項目は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーディング勘定における金利リスク関連商品及びエクイティ関連商品の清算リスク</li> <li>・ 銀行勘定全体における外国為替リスクとコモディティ・リスク</li> </ul> <p>Market risk is defined as the risk of losses in on and off-balance-sheet positions arising from movements in market prices. The risks subject to this requirement are:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ The risks pertaining to interest rate related instruments and equities in the trading book;</li> <li>・ Foreign exchange risk and commodities risk throughout the bank.</li> </ul> | <p>マーケット・リスクは「市場価格変動に起因して損失が発生するリスク」と定義される。マーケット・リスク資本賦課に関する規制対象項目の例は次の通りだが、これらには限られない：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーディング勘定におけるデフォルト・リスク、金利リスク、クレジット・スプレッド・リスク、エクイティ・リスク、外国為替リスク、コモディティ・リスク</li> <li>・ 銀行勘定における外国為替リスクとコモディティ・リスク</li> </ul> <p>Market risk is defined as the risk of losses arising from movements in market prices. The risks subject to market risk capital charges include but are not limited to:</p> <p>(a) Default risk, interest rate risk, credit spread risk, equity risk, foreign exchange risk and commodities risk for trading book instruments; and</p> <p>(b) Foreign exchange risk and commodities risk for banking book instruments.</p> |

(出所) パーゼルⅡテキスト第 683(i)項および最終規則第 1 項

### ④ トレーディング勘定の構成

トレーディング勘定を構成する商品等に関する最終規則の記載を抜粋し、パーゼルⅡテキストと比較してみましょう（図表 5-3-4）。

■ 図表 5-3-4 トレーディング勘定の構成

|  |
|--|
| <p><b>パーゼルⅡテキスト第 685 項の定義</b></p> <p>トレーディング勘定はトレーディング目的で保有する、またはトレーディング・ブックのその他の要素をヘッジする全ての金融商品とコモディティから構成される。トレーディング勘定に対する資本規制の取扱いの適格要件となるためには、金融商品のトレードにあたり制限的制約が存在しないか、又は完全にヘッジすることが可能であることが必要である。これに加えてポジションは頻繁に、そして正確に測定され、ポートフォリオは能動的に管理されていなければならない。</p> <p><i>A trading book consists of positions in financial instruments and commodities held either with trading intent or in order to hedge other elements of the trading book. To be eligible for trading book capital treatment, financial instruments must either be free of any restrictive covenants on their tradability or able to be hedged completely. In addition, positions should be frequently and accurately valued, and the portfolio should be actively managed.</i></p> |
| <p><b>最終規則第 8 項の定義</b></p> <p>トレーディング勘定は次の全ての要件を満たすもの（トレーディング勘定商品）から構成される</p> <p><i>A trading book consists of all instruments that meet the specifications below ("trading book instruments").</i></p>  |
| <p><b>最終規則第 9 項～ 11 項（抜粋）</b></p> <p>第 9 項：金融商品、外国為替、コモディティに該当する商品。（以下略）</p> <p><i>Instruments comprise financial instruments, foreign exchange, and commodities.</i></p> <p>第 10 項：銀行は金融商品、外国為替、コモディティについて、売却か完全なヘッジを行うに当たり法的な制約が存在しない場合にのみ、これらをトレーディング勘定に含めることができる。</p> <p><i>Banks may only include a financial instrument, foreign exchange, or a commodity in the trading book when there is no legal impediment against selling or fully hedging it.</i></p> <p>第 11 項：銀行はトレーディング勘定に含まれた商品を日々、時価評価し、その評価差額を当期の損益として計上しなければならない。</p> <p><i>Banks must fair-value daily any trading book instrument and recognise any valuation change in the profit and loss (P&amp;L) account.</i></p>   |

(出所) パーゼルⅡテキスト及び最終規則より当社作成

## ⑤ トレーディング勘定に含まれるもの

最終規則に沿って、「トレーディング勘定に含まれるもの」と「推定規定が働くもの」、「反証のプロセス」について抜粋してみます（図表 5-3-5）。

### ■ 図表 5-3-5 トレーディング勘定の構成物

|   |  |
|---|--|
| <p><b>最終規則第12項：トレーディング目的</b><br/>以下のうち1つ以上の目的で保有する商品はトレーディング勘定に区分しなければならない。<br/>Any instrument a bank holds for one or more of the following purposes must be designated as a trading book instrument:</p>  |  |
| (a) short-term resale;  | (a) 短期的な売買   |
| (b) profiting from short-term price movements;  | (b) 短期的価格変動による利益獲得   |
| (c) locking in arbitrage profits;   | (c) 裁定利益の確定  |
| (d) hedging risks that arise from instruments meeting criteria (a), (b) or (c) above.   | (d) 上記(a)～(c)の要件を満たす商品のリスク・ヘッジ                                   |
| <p><b>最終規則第13項：トレーディング目的のみなし規定</b><br/>以下の商品は第12項にいう目的のうち、少なくとも1つ以上の目的で保有されているものとみなされ、トレーディング勘定に含めなければならない。<br/>Any of the following instruments is seen as being held for at least one of the purposes listed in paragraph 12 and therefore must be included in the trading book:</p>  |  |
| (a) instrument in the correlation trading portfolio;  | (a) コリレーション・トレーディング・ポートフォリオの商品                                   |
| (b) instrument that is managed on a trading desk as defined by the criteria set out in paragraphs 22 to 26;   | (b) 最終規則第22項～第26項に規定するトレーディング・デスクが管理する商品                         |
| (c) instrument giving rise to a net short credit or equity position in the banking book;  | (c) 銀行勘定に対し信用又はエクイティのネット・ショート・ポジションをもたらす商品                       |
| (d) instruments resulting from underwriting commitments   | (d) コモディティの引受により生じる商品  |
| <p><b>最終規則第16項：トレーディング目的の推定規定</b><br/>以下の商品は第12項の目的で保有するものと推定されるが、銀行が第17項の手続により反証を示した場合はこの限りではない。<br/>There is a general presumption that any of the following instruments are being held for at least one of the purposes listed in paragraph 12 and therefore are trading book instruments, unless banks are allowed to deviate from the presumption according to the process in paragraph 17</p>   |  |
| (a) instruments held as accounting trading assets or liabilities;   | (a) 会計上、売買目的の資産・負債として保有する商品                                      |
| (b) instruments resulting from market-making activities;  | (b) マーケット・メイク活動により発生した商品   |
| (c) equity investment in a fund excluding paragraph 15(e);  | (c) 第15項(e)に含まれないファンドによる株式投資                                     |
| (d) listed equities;  | (d) 上場株式   |
| (e) trading-related repo-style transaction; or  | (e) レポ形式の取引に関連するトレード   |
| (f) options including bifurcated embedded derivatives from instruments issued out of the banking book that relate to credit or equity risk.   | (f) 銀行勘定外で発行された商品の組込デリバティブに含まれるオプションであって、クレジット又はエクイティ・リスクに関連するもの |
| <p><b>最終規則第17項：第16項の推定規定に対する反証の提出</b><br/>銀行が第16項に示した推定規定とは異なる取扱いをすることが必要だと考える場合、その銀行は監督当局に対する申請により、厳格な承認を得ることが必要である。申請においては、銀行はその商品が第12項に示した目的のいずれにも該当しないことを証明することが必要である。監督当局から承認が得られない場合、その商品はトレーディング勘定の商品として取り扱われなければならない。銀行は都度、詳細について文書化しなければならない。<br/>If a bank believes that it needs to deviate from the presumptive list established in paragraph 16 for an instrument, it must submit a request to its supervisor and receive explicit approval. In its request, the bank must provide evidence that the instrument is not held for any of the purposes in paragraph 12. In cases where this approval is not given by the supervisor, the instrument must be designated as a trading book instrument. Banks must document any deviations from the presumptive list in detail on an on-going basis.</p> |  |

(出所) 最終規則より当社作成

## ⑥ トレーディング勘定から除外される項目

最終規則では、「①トレーディングの目的（第12項）を有さない商品」や、「②非上場株式や日々の時価評価が困難な商品」については、銀行勘定（バンキング勘定）に含めるものとしています（図表 5-3-6）。

### ■ 図表 5-3-6 バンキング勘定項目

#### 最終規則第14項：銀行勘定（バンキング勘定）

取得当初の時点で第12項の目的により取得されたものではなく、あるいは第13項の要件を満たす目的で保有されているものではない場合には、銀行勘定にて保有しなければならない。

*Any instrument which is not held for any of the purposes listed in paragraph 12 at inception, nor seen as being held for these purposes according to paragraph 13, must be assigned to the banking book.*

#### 最終規則第15項：銀行勘定の商品

以下の商品は当規制枠組み上、特段の定めがない限り、銀行勘定に割り当てられなければならない。

*The following instruments must be assigned to the banking book, unless specifically provided otherwise in this framework:*

|  |  |
|--|--|
| (a) <i>unlisted equities;</i>  | (a) 非上場株式  |
| (b) <i>instrument designated for securitisation warehousing;</i>   | (b) 証券化のウェアハウス目的で分別された商品   |
| (c) <i>real estate holdings;</i>   | (c) 保有不動産  |
| (d) <i>retail and SME credit;</i>  | (d) リテール及び中小企業向け信用   |
| (e) <i>equity investments in a fund, including but not limited to hedge funds, in which the bank cannot look through the fund daily or where the bank cannot obtain daily real prices for its equity investment in the fund;</i> | (e) ファンドで保有する株式。日マルックスルーすることができない、又は銀行がファンドに含まれる株式の日々の実態価格を入手することができない場合のヘッジ・ファンドを含むがこれに限られない。 |
| (f) <i>derivative instruments that have the above instrument types as underlying assets; or</i>  | (f) デリバティブ商品のうち原資産が上記性質を有しているもの  |
| (g) <i>instruments held for the purpose of hedging a particular risk of a position in the types of instrument above.</i>   | (g) 上記に示した種類の商品に係るポジションに対する特定のリスクをヘッジする商品  |

(出所) 最終規則より当社作成

## ⑦ 「トレーディング勘定」のその他の留意点

トレーディング勘定を巡る、最終規則上のその他の留意点を確認しておきましょう（図表 5-3-7）。

### ■ 図表 5-3-7 トレーディング勘定に関する最終規則上の留意点

| 項目（原文）  | タイトル仮訳                          | 該当項       |
|---|---------------------------------|-----------|
| Risk management policies for trading book instruments           | トレーディング商品に関するリスク管理方針            | 第21項      |
| Definition of trading desk                                      | トレーディング・デスクの定義                  | 第22項～第26項 |
| Restrictions on moving instruments between the regulatory books | 規制上の両勘定相互間での振替の制限               | 第27項～第30項 |
| Treatment of internal risk transfers                            | 内部リスク移転の取扱い                     | 第31項～第39項 |
| Treatment of counterparty credit risk in the trading book       | トレーディング勘定におけるカウンターパーティ信用リスクの取扱い | 第40項～第43項 |
| Transitional arrangements                                       | 経過措置                            | 第44項      |

(出所) 最終規則より当社作成

## コラム：IFRSとトレーディング規制

今回、BCBSが公表した「最終規則」のうち「第27項」には、次のような規定が設けられています。

トレーディング勘定と銀行勘定の間で、銀行が自らの選択により当初の区分を変更することには厳格な制限を設ける（詳細な手続は規則第28項～第29項を参照）。商品を**規制上のアービトラージ目的**で変更することは厳格に禁止される。

There is a strict limit on the ability of banks to move instruments between the trading book and the banking book by their own choice after initial designation, which is subject to the process in paragraphs 28 to 29. Switching instruments for **regulatory arbitrage** is strictly prohibited.

（出所）最終規則第27項より抜粋

会計上の保有目的区分と銀行自己資本比率規制上のトレーディング／バンキング勘定の関係は、必ずしもリンクするものではありません。しかし、今回の最終規則第11項では、会計上の保有目的区分と**無関係に**、トレーディング勘定で保有する商品を日々時価評価し、時価変動差額を毎期の損益に計上しなければならないとされています。

銀行はトレーディング勘定に含められた商品を日々、時価評価し、その評価差額を当期の損益として計上しなければならない。

Banks must fair-value daily any trading book instrument and recognise any valuation change in the profit and loss (P&L) account.

（出所）最終規則第11項

国際財務報告基準（IFRS）を策定している団体「IASB」（本部：ロンドン）は、2008年のリーマン・ショック直後に、金融商品会計基準である「IAS39」を突如として改訂し、保有目的区分の変更を容認する決定を行いました（※わが国でも企業会計基準委員会（ASBJ）が類似する会計基準を時限的に導入した実績があります）。しかし、このことで欧州を中心に金融機関の不良資産の処理が遅延し、結果的に金融危機が深化したという事例があったという側面は否めないでしょう。

# 6 米国「ボルカー・ルール」

## (1) ボルカー・ルールの成立

### ① ドッド・フランク法

2008 年の国際的な金融危機を受けて、国際的な規制当局が金融規制を強化しようとする動きと並行し、米国内では 2010 年 7 月 21 日に「ドッドとフランクによるウォール街の改革と消費者保護のための法制 (the “Dodd-Frank Wall Street Reform and Consumer Protection Act” )」(以下、当資料で「ドッド・フランク法」) が成立。この第 619 条で、「1956 年銀行持株法 (The Bank Holding Company Act of 1956, BHC Act)」の第 13 条に「自己勘定取引並びにヘッジ・ファンド及びプライベート・エクイティ・ファンドとの特定の関係の禁止 (“PROHIBITIONS ON PROPRIETARY TRADING AND CERTAIN RELATIONSHIPS WITH HEDGE FUNDS AND PRIVATE EQUITY FUNDS”）」を付け加えることが定められました (図表 6-1-1)。

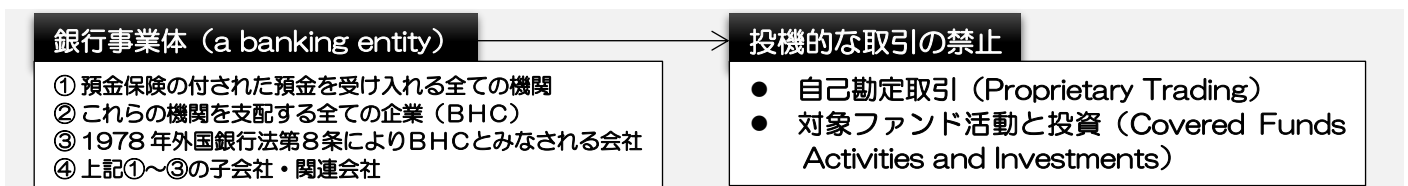
■ 図表 6-1-1 ドッド・フランク法第 619 条 部分的逐語訳

| 原文  | 仮訳  |
|---|---|
| SEC. 619. PROHIBITIONS ON PROPRIETARY TRADING AND CERTAIN RELATIONSHIPS WITH HEDGE FUNDS AND PRIVATE EQUITY FUNDS.  | 第 619 条 自己勘定取引並びにヘッジ・ファンド及びプライベート・エクイティ・ファンドとの特定の関係の禁止  |
| The Bank Holding Company Act of 1956 (12 U.S.C. 1841 et seq.) is amended by adding at the end the following:  | 1956 年銀行持株法 (12 U.S.C. 1841 以下参照) に次の条文を加える。  |
| (a) IN GENERAL.—<br>(1) PROHIBITION<br>.—Unless otherwise provided in this section, a banking entity shall not—<br>(A) engage in proprietary trading; or<br>(B) acquire or retain any equity, partnership, or other ownership interest in or sponsor a hedge fund or a private equity fund.<br>(2) NONBANK FINANCIAL COMPANIES SUPERVISED BY THE BOARD.<br>.—Any nonbank financial company supervised by the Board that engages in proprietary trading or takes or retains any equity, partnership, or other ownership interest in or sponsors a hedge fund or a private equity fund shall be subject, by rule, as provided in subsection (b) (2), to additional capital requirements for and additional quantitative limits with regards to such proprietary trading and taking or retaining any equity, partnership, or other ownership interest in or sponsorship of a hedge fund or a private equity fund, except that permitted activities as described in subsection (d) shall not be subject to the additional capital and additional quantitative limits except as provided in subsection (d) (3), as if the nonbank financial company supervised by the Board were a banking entity. | (a) 総則<br>(1) 禁止規定<br>—当セクションにおいて別段の定めがない限り、銀行事業体は次の行為を行ってはならない。<br>(A) 自己勘定取引に関与すること<br>(B) ヘッジ・ファンド又はプライベート・エクイティ・ファンドを取得し、又は出資、パートナーシップ、もしくはその他のオーナーシップとしての利害を保持し、又はスポンサーとなること<br>(2) FRB が監督するノンバンク金融会社<br>—FRB が監督しているノンバンク金融会社であって、自己勘定取引に関与し、若しくはヘッジ・ファンド又はプライベート・エクイティ・ファンドを取得し、又は出資、パートナーシップ、もしくはその他のオーナーシップとしての利害を保持し、又はスポンサーとなっている場合は、サブセクション (b) (2) に定められた規制に従い、追加的な自己資本規制に服するとともに、追加的な自己勘定取引ヘッジ・ファンド又はプライベート・エクイティ・ファンドを取得し、又は出資、パートナーシップ、もしくはその他のオーナーシップとしての利害を保持し、又はスポンサーとなることに対する定量的制限に服する。ただし、サブセクション (d) の規定に従い、(d) (3) において FRB の銀行会社としての監督に服している場合はこの限りではない。 |

(出所) 米証券取引委員会 (SEC) ウェブサイト ( <https://www.sec.gov/about/laws/wallstreetreform-cpa.pdf> )。ただし仮訳は当社作成

いわば、米国に拠点をもつ銀行を対象に一定の投機的取引を原則禁止する規制です (図表 6-1-2)。

■ 図表 6-1-2 銀行業に対する投機的取引の禁止規定



(出所) 当社作成

## ② 米連邦規則の共通ルール

米国の「連邦規則」(the Code of Federal Regulations)については、概ねその最新版を「電子連邦規則集」(e-CFR data)として閲覧することが可能であり、当資料でも作成日時点までに閲覧可能な最新の条文を米国連邦政府出版局(“Electronic Code of Federal Regulations”, U.S. Government Publishing Office)から入手しています(図表 6-1-3)。

■ 図表 6-1-3 条文の構造と管轄当局

| the Code of Federal Regulations<br>(米連邦規則)               |  |  |  |
|--|--|--|--|
| Title 1  |  |  |  |
| Title 2  |  |  |  |
| ⋮  |  |  |  |
| Title 12 Banks and Banking<br>(銀行と銀行システム)                |  |  |  |
| ⋮  |  |  |  |
| Title 17 Commodity and Securities Exchanges<br>(商品・証券取引) |  |  |  |
| ⋮  |  |  |  |
| Title 50   |  |  |  |

| ■ Title 12 Banks and Banking |         |         |   |
|------------------------------|---------|---------|---|
| Volume                       | Chapter | Parts   | Regulatory Entity                                       |
| 1                            | I       | 1-199   | COMPTROLLER OF THE CURRENCY, DEPARTMENT OF THE TREASURY |
| 2                            | II      | 200-219 | FEDERAL RESERVE SYSTEM                                  |
| 3                            |         | 220-229 |   |
| 4                            |         | 230-299 |   |
| 5                            | III     | 300-399 | FEDERAL DEPOSIT INSURANCE CORPORATION                   |
|                              | IV      | 400-499 | (略)   |
| 6                            | V       | 500-599 | (略)   |
| (以下略)                        |         |         |   |

| ■ Title 17 Commodity and Securities Exchanges |         |         |                                      |
|---|---------|---------|--------------------------------------|
| Volume  | Chapter | Parts   | Regulatory Entity                    |
| 1   | I       | 1-40    | COMMODITY FUTURES TRADING COMMISSION |
| 2   |         | 41-199  |                                      |
| 3   | II      | 200-239 | SECURITIES AND EXCHANGE COMMISSION   |
| 4   |         | 240-399 |                                      |
|   | IV      | 400-499 | (略)                                  |

(出所) [www.ecfr.gov](http://www.ecfr.gov)

いわゆる「ボルカー・ルール」(Volcker Rule)とは、「自己勘定トレーディングと対象ファンドに対する特定の利益・関係を持つことの規制 (PROPRIETARY TRADING AND CERTAIN INTERESTS IN AND RELATIONSHIPS WITH COVERED FUNDS)」であるとされており、関連する規制当局は大きく分けて5つにまたがっています(図表 6-1-4)が、それぞれの規定内容はほぼ同一です(図表 6-1-5)。

■ 図表 6-1-4 ボルカー・ルールに関連する規制当局

| 略称   | 正式名称  | 当局名称参考訳    | 規則該当箇所         |
|------|---|------------|----------------|
| OCC  | COMPTROLLER OF THE CURRENCY, DEPARTMENT OF THE TREASURY | 財務省通貨庁     | Title12- § 44  |
| FRB  | FEDERAL RESERVE SYSTEM                                  | 米連邦準備制度理事会 | Title12- § 248 |
| FDIC | FEDERAL DEPOSIT INSURANCE CORPORATION                   | 米連邦預金保険公社  | Title12- § 351 |
| CFTC | COMMODITY FUTURES TRADING COMMISSION                    | 商品先物取引委員会  | Title17- § 75  |
| SEC  | SECURITIES AND EXCHANGE COMMISSION                      | 証券取引委員会    | Title17- § 255 |

(出所) [www.ecfr.gov](http://www.ecfr.gov)

■ 図表 6-1-5 タイトル12- § 44、 § 248、 § 351、タイトル17- § 75、 § 255 の構成

| サブパート     | 表題 (原文)                                    | 表題 (仮訳)     | 該当条項  |
|-----------|--|-------------|-------|
| Subpart A | Authority and Definitions                  | 当局と定義       | 1~2   |
| Subpart B | Proprietary Trading                        | 自己勘定取引      | 3~7   |
| Subpart C | Covered Funds Activities and Investments   | 対象ファンド活動と投資 | 10~16 |
| Subpart D | Compliance Program Requirement; Violations | 法令遵守の要求と違反時 | 21    |

(出所) [www.ecfr.gov](http://www.ecfr.gov)

当資料では特に断りがない限り、以下では「連邦規則」の引用条文は「連邦規則第 12 編第 248 条」(section 248 of the CFR Title 12、F R Bによる規制部分)のものを利用します(たとえばサブパートCを引用する場合は第 248 条 10~16 を参照します)。

### ③ その他の重要な公表物

ボルカー・ルールに関わる規制主体のうち、OCC、FRB、FDIC、SECは2013年12月10日、ボルカー・ルールの最終規則を巡るコメントとそれに対する規制当局の考え方などを示した「自己勘定取引、及びヘッジファンド・並びにプライベート・エクイティ・ファンドに対する特定の利害及び関係を持つことの禁止と規制(原題“Prohibitions and Restrictions on Proprietary Trading and Certain Interests In, and Relationships With, Hedge Funds and Private Equity Fund”)」と題する資料を公表しました(原文は、例えばSECウェブサイト(<https://www.sec.gov/rules/final/2013/bhca-1.pdf>)などに収録されています)。また、規制当局は、ウェブサイトに「FAQ」を掲載しています(例:FRBの場合はウェブサイト上、「ボルカー・ルールに関するよくある質問(原題“Volcker Rule Frequently Asked Questions”)」を公表しています(原文はFRBウェブサイト(<http://www.federalreserve.gov/bankinfo/volcker-rule/faq.htm>)にあります)。

#### ■ 図表 6-1-6 当局公表物の例

| 略称      | 資料原題   | 表題仮訳  | 公表主体                      | URL   |
|---------|--|---|---------------------------|---|
| 当局資料    | Prohibitions and Restrictions on Proprietary Trading and Certain Interests In, and Relationships With, Hedge Funds and Private Equity Fund | 自己勘定取引、及びヘッジファンド・並びにプライベート・エクイティ・ファンドに対する特定の利害及び関係を持つことの禁止と規制 | 規制当局(OCC/FRB/FDIC/SEC)の連名 | <a href="https://www.sec.gov/rules/final/2013/bhca-1.pdf">https://www.sec.gov/rules/final/2013/bhca-1.pdf</a>                         |
| FRBのFAQ | Volcker Rule Frequently Asked Questions  | ボルカー・ルールに関するよくある質問  | FRB                       | <a href="http://www.federalreserve.gov/bankinfo/volcker-rule/faq.htm">http://www.federalreserve.gov/bankinfo/volcker-rule/faq.htm</a> |

(出所) 当社作成

### ④ 適用期日

ボルカー・ルールに係る最終規則は2013年12月10日に公表されたものですが、その適用期日は図表 6-1-7 の通りです。

#### ■ 図表 6-1-7 ボルカー・ルールの適用期日(抜粋)

| 日付          | 概要   | 備考   |
|-------------|--|--|
| 2010年7月21日  | 「ドッド・フランク法」成立                              |  |
| 2013年12月10日 | 規制当局が最終規則を公表                               | 規制当局(OCC、FRB、FDIC、SEC)連名                             |
| 2014年7月1日   | トレーディング勘定のデイリー報告義務開始                       | トレーディング資産・負債規模が500億ドル以上の銀行。当初は1カ月分の統計を月末で締めて30日以内に報告 |
| 2014年7月21日  | レガシー・ファンド処分の猶予期間(conformance period)の当初終了日 |  |
| 2015年1月~    | トレーディング勘定のデイリー報告期日延長期間の終了                  | 2015年以降、報告期日を10日以内に短縮                                |
| 2015年7月21日  | (規則公表当初の)レガシー・ファンドの処分期日                    | 規則公表時点での猶予期間   |
| 2016年7月21日  | (現時点での)レガシー・ファンドの処分期日                      | FRBは2015年11月20日時点で、期日をさらに1年間延長する準備があると表明             |

(出所) FRB、SECウェブサイト等



## (2) ファンド投資規制

ボルカー・ルールは「銀行事業体」が「投機的な取引」（自己勘定取引やファンド投資等）を行うことを禁止するものです。本節では米連邦規則等を手掛かりに、主に「ファンド投資等」の部分に焦点を絞って規制を概観します。

### ① 規則の骨子（FRB編）

ボルカー・ルールのうち、ファンド投資規制に係る「サブパートC」の全体的な構造は図表 6-2-1 の通りです。

■ 図表 6-2-1 ボルカー・ルールのうちサブパートC（ファンド投資規制）（第 12 編・FRB部分）

| 該当条文     | 条文タイトル（原文）  | 条文タイトル（仮訳）                            |
|----------|---|---------------------------------------|
| § 248.10 | Prohibition on acquiring or retaining an ownership interest in and having certain relationships with a covered fund.                  | 対象ファンドを取得し、又は保持すること並びに特定の関係を保有することの禁止 |
| § 248.11 | Permitted organizing and offering, underwriting, and market making with respect to a covered fund.                                    | 対象ファンドに関連して容認される組織、販売、引受、マーケット・メイク    |
| § 248.12 | Permitted investment in a covered fund.   | 対象ファンドに投資が認められる場合                     |
| § 248.13 | Other permitted covered fund activities and investments.  | ファンド活動・投資が認められるその他の場合                 |
| § 248.14 | Limitations on relationships with a covered fund.   | 対象ファンドとの関係の制限                         |
| § 248.15 | Other limitations on permitted covered fund activities.   | 容認される対象ファンド活動のその他の制限                  |
| § 248.16 | Ownership of interests in and sponsorship of issuers of certain collateralized debt obligations backed by trust-preferred securities. | 優先信託受益権により裏付けされた特定CDOの発行者に他する持分の所有    |

（出所） [www.ecfr.gov](http://www.ecfr.gov) より抜粋。なお、抜粋箇所はFRB編のみ

なお、連邦規則上は「第 12 編第 248 条」（FRB編）のみではなく、OCCやFDIC、CFTC、SECなどの管掌する規制が存在しており、内容はほぼ同一ですが、当資料ではこのうち「FRB編」のみを参照しています。

■ 図表 6-2-2 ファンド規制の原則と例外（第 12 編第 248 条より）

| 原則規定                        | 銀行事業体の対象ファンドを取得し、若しくは持分権を保持し、又は特定の関係を持つことの禁止<br>Prohibition on acquiring or retaining an ownership interest in and having certain relationships with a covered fund. (§ 248.10(a)(1))  |  |                     |
|-----------------------------|--|--|---------------------|
| 例外規定                        | #  | 禁止規定が適用されない場合の例                              | 記載箇所                |
| 上記規定に関わらず、上記禁止規定が適用されない場合の例 | ①  | 顧客の代理等として行う場合など                              | § 248.10(a)(2)      |
|                             | ②  | 禁止対象外ファンド（外国公募投信、外国の年金・退職金基金等）→14 種類の列挙      | § 248.10(c)(1)～(14) |
|                             | ③  | 対象ファンドの販売、引受、マーケット・メイク等が認められる場合              | § 248.11(a)～(c)     |
|                             | ④  | 対象ファンドへの投資が認められる場合                           | § 248.12(a)(i)～(ii) |
|                             | ⑤  | リスク低減を目的としたヘッジ活動に伴うもの                        | § 248.13(a)         |
|                             | ⑥  | 完全に米国外（Soly Outside of the US, SOTUS）で行われる場合 | § 248.13(b)         |
|                             | ⑦  | 規制された保険会社における対象ファンドへの投資等                     | § 248.13(c)         |
| 法令遵守                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>例外的に対象ファンドへの投資等を行う場合、当該銀行事業体は法令への順守を継続的に確認するなどの内部管理体制を整える必要がある（§ 248.20 以降）</li> <li>12 月 31 日時点でその銀行事業体の連結総資産が 100 億ドル以上の場合、その銀行事業体は対象ファンドについての追加的なドキュメンテーションが必要（§ 248.20(e)）</li> </ul> |  |                     |

（出所） 当社作成

## ② 銀行事業体 (Banking Entity)

ボルカー・ルールが適用される対象である「銀行事業体」(Banking Entity)の定義を概観しておきます(図表6-2-3)。

■ 図表6-2-3 銀行事業体 (Banking Entity)

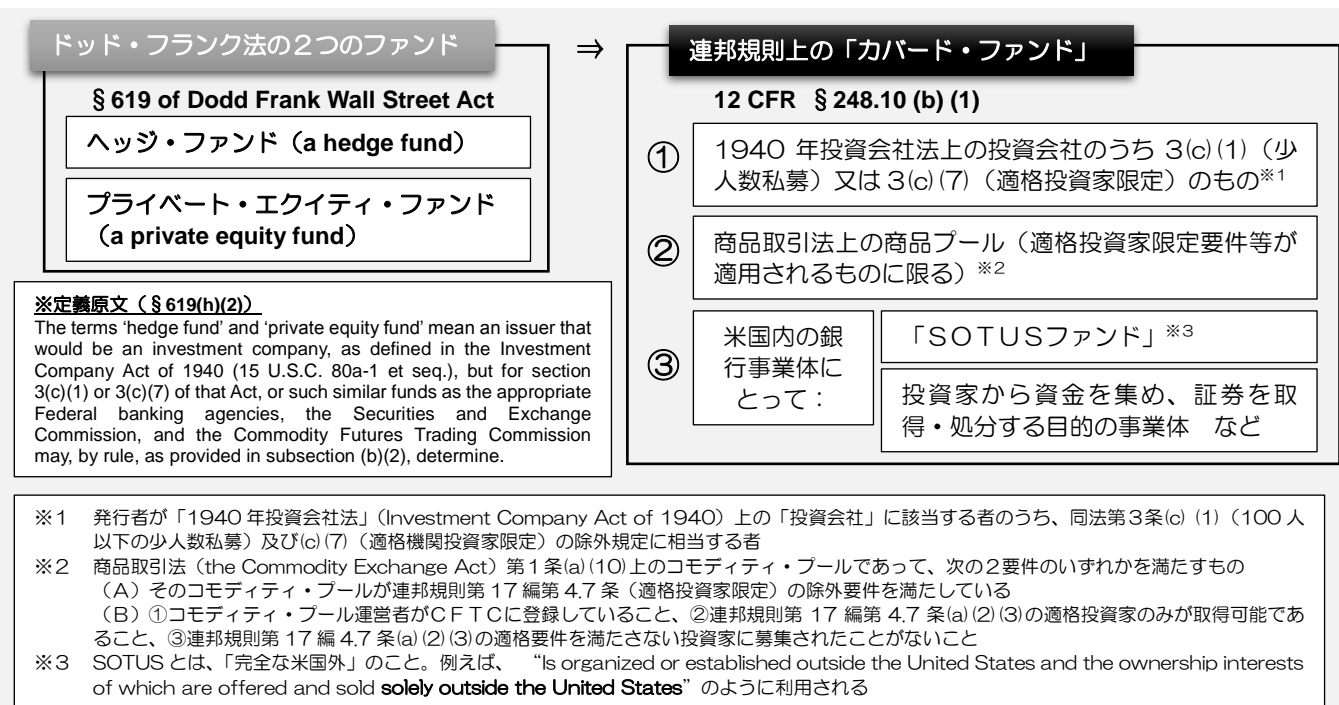
| 銀行事業体 (Banking Entity) の定義に含まれるもの<br>§ 248.2(c)(1)(i)~(iv)  | 銀行事業体 (Banking Entity) の定義に含まれないもの<br>§ 248.2(c)(2)(i)~(iii)   |
|---|--|
| ① 保険対象となる全ての預金取扱機関<br>Any insured depository institution  | ① それ自身が①~③上の銀行の要件を満たさない対象ファンド<br>A covered fund that is not itself a banking entity under paragraphs (c)(1)(i), (ii), or (iii) of this section |
| ② 保険対象預金取扱機関を支配する全ての企業<br>Any company that controls an insured depository institution   | ② 一定の認可を得たポートフォリオ・カンパニー (詳細略)<br>A portfolio company held under the authority( snip )  |
| ③ 1978年外国銀行法第8条上、銀行持株会社とみなされる全ての企業<br>Any company that is treated as a bank holding company for purposes of section 8 of the International Banking Act of 1978 (12 U.S.C. 3106) | ③ 法に基づいて破産管財人・後継人となっている場合のFDIC (連邦預金保険公社)  |
| ④ 上記①~③の子会社・関連会社<br>Any affiliate or subsidiary of any entity described in paragraphs (c)(1)(i), (ii), or (iii) of this section   |  |

(出所) 当社作成

## ③ 対象ファンド (カバード・ファンド)

ドッド・フランク法第 619 条にいう「禁止行為」の対象となるのは「プライベート・エクイティ・ファンド」と「ヘッジ・ファンド」であるとされています。連邦規則上、これらは「規制対象となるファンド」という意味で「対象ファンド (カバード・ファンド)」と表現されています(図表6-2-4)。

■ 図表6-2-4 禁止対象の「カバード・ファンド」の概要



(出所) 当社作成

ところで、図表 6-2-4 において、連邦規則上の対象ファンド（カバード・ファンド）に該当する場合の中に、「米国内の銀行事業体」だけに適用される項目があることがわかります（例：第 12 編第 248.10 条(b)(1)(iii)）。これについての連邦規則の記載を確認しておきます（図表 6-2-5）。

■ 図表 6-2-5 「米国内に所在する」の意味

| 12 CFR Sec. 248.10(b)(3)  | 連邦規則第 12 編第 248.10 条(b)(3)  |
|---|---|
| For purposes of paragraph (b)(1)(iii) of this section, a U.S. branch, agency, or subsidiary of a foreign banking entity is located in the United States; however, the foreign bank that operates or controls that branch, agency, or subsidiary is not considered to be located in the United States solely by virtue of operating or controlling the U.S. branch, agency, or subsidiary. | 本セクション第(b)(1)(iii)項において、外国の銀行事業体の米国支店、米国代理人、米国子会社は米国内に所在するものである。ただし、その米国支店、米国代理人、米国子会社を運営している外国銀行自体、その事実のみをもって「米国内に所在するものである」とするものではない。 |

（出所） 当社作成

すなわち、外国銀行（例えば邦銀）が米国内に支店を保有していた場合、その外国銀行の米国支店自体は同規則上「米国内に所在する」とされていますが、だからといって、自動的にその外国銀行（本体）が「米国内に所在する」とみなされるものではない、とする規定です（ただし、その他の規定で「米国の銀行」に該当している場合は除きます）。

④ 例外規定

ボルカー・ルールにおいては、「銀行事業体」に該当する場合、原則として「対象ファンド（カバード・ファンド）」への投資等は禁止されます。しかし、「対象ファンド」であってもこうした規制から除外される場合や、「対象ファンド」から除外される場合、さらにはリスク・ヘッジを目的としたものや、外国銀行に対する例外規定などが設けられています（図表 6-2-6）。

■ 図表 6-2-6 主な例外規定

| # | 例外規定                            | 具体例又は説明  | 記載箇所                  |
|---|---------------------------------|--|-----------------------|
| ① | 顧客の代理等として行う場合など                 | ①単なる代理人、引受人、受託者として行う場合、②従業員の年金基金の一部引受、③通常の債権回収業務で発生したもの、④受託者として行うもの  | § 248.10(a)(2)        |
| ② | 禁止対象外ファンド（外国公募投信、外国の年金・退職金基金等）  | ①一定要件を満たす外国公募投信、②完全子会社、③ジョイント・ベンチャー、④企業取得事業体、⑤外国の年金・退職金基金、⑥保険会社の特別勘定、⑦銀行が保有する保険会社、⑧貸出の証券化、⑨適格ABC P導管体、⑩適格カバード・ボンド、⑪中小企業投資会社（S B I C）や公益投資基金、⑫登録投資企業、⑬連邦預金保険公社（F D I C）による破産管財基金等、⑭その他当局が適切と認めるもの | § 248.10(c)(1) ~ (14) |
| ③ | 対象ファンドの販売、引受、マーケット・メイク等が認められる場合 | ①真正な（bona fide）信託等により顧客の計算において行うなど、一定の要件を満たしている場合、②一定要件を満たした資産担保証券（ABC P）の組成・販売を目的とした場合、③容認される自己勘定取引における引受とマーケット・メイクに係る取引  | § 248.11(a) ~ (c)     |
| ④ | 対象ファンドへの投資が認められる場合              | ①設立（Establishment）、②僅少な投資（De minimis investment）。ただし、総額制限や売買などに強い制約が生じる  | § 248.12(a)(i) ~ (ii) |
| ⑤ | リスク低減を目的としたヘッジ活動に伴うもの           | 明示的に（demonstrably）リスクを軽減するよう設計されるなどの要件を満たした対象ファンドへの投資等   | § 248.13(a)           |
| ⑥ | SOTUSファンド                       | 「完全に米国外で行われている」（Solely Outside of The U.S., SOTUS）の要件を満たすファンドへの投資等   | § 248.13(b)           |
| ⑦ | 規制された保険会社における対象ファンドへの投資等        | 保険会社又はその関連会社が対象ファンドを一般勘定又は特別勘定で保有する場合で一定要件を満たした場合  | § 248.13(c)           |

（出所） 当社作成

## ⑤ 外国公募投信

ボルカー・ルールは米国内の銀行事業体に対して「対象ファンド」への持分権等の取得を禁止していますが、禁止対象外ファンドに該当する場合はこの限りではなく、例えば連邦規則第 12 編第 248 条にいう「対象ファンドの範囲に含まれないもの」(§ 248.10(c)(1)~(14))の要件を満たしている場合は、禁止規定が適用されません。例えば「登録された投資会社等」(§ 248.10(c)(12))や「外国公募投信」(§ 248.10(c)(1))などは対象ファンドの範囲から除外されています。このうち、「外国公募投信」(Foreign public funds)の記載を抜粋してみます(図表 6-2-7)。

### ■ 図表 6-2-7 外国公募投信 (Foreign public funds)

|  |   |
|--|---|
| <p>(1) <b>Foreign public funds.</b> (i) Subject to paragraphs (ii) and (iii) below, an issuer that:</p> <p>(A) Is organized or established outside of the United States;</p> <p>(B) Is authorized to offer and sell ownership interests to retail investors in the issuer's home jurisdiction; and</p> <p>(C) Sells ownership interests predominantly through one or more public offerings outside of the United States.</p>   | <p>(1) <b>外国公募投信</b>とは、(i)パラグラフ(ii)及び(iii)に従い、次の発行者であること</p> <p>(A) 米国外で組成され、又は設立されていること</p> <p>(B) 発行者の所在国においてリテール投資家に持分権の販売が認められていること</p> <p>(C) 持分権の販売は1回以上の公募により、その大部分が米国外で行われていること</p>   |
| <p>(ii) With respect to a banking entity that is, or is controlled directly or indirectly by a banking entity that is, located in or organized under the laws of the United States or of any State and any issuer for which such banking entity acts as sponsor, the sponsoring banking entity may not rely on the exemption in paragraph (c)(1)(i) of this section for such issuer unless ownership interests in the issuer are sold predominantly to persons other than:</p> <p>(A) Such sponsoring banking entity;</p> <p>(B) Such issuer;</p> <p>(C) Affiliates of such sponsoring banking entity or such issuer; and</p> <p>(D) Directors and employees of such entities.</p>   | <p>(ii) 銀行事業体、又は銀行事業体が直接的若しくは間接的に支配する組織の場合、米国内に所在しているか、又はアメリカ合衆国若しくはいずれかの州の法律に従って設立され、そのような銀行がスポンサーとして行動しているような場合、スポンサーの銀行事業体は下記(A)~(D)以外の者にその大部分の持分権を販売していない限り、前号(c)(1)(i)の除外規定の適用を受けることはできない</p> <p>(A) スポンサーを務める銀行事業体</p> <p>(B) 当該発行者</p> <p>(C) スポンサー銀行事業体又は発行者の関連会社</p> <p>(D) そのような事業体の役職員</p> |
| <p>(iii) For purposes of paragraph (c)(1)(i)(C) of this section, the term "public offering" means a distribution (as defined in §248.4(a)(3) of subpart B) of securities in any jurisdiction outside the United States to investors, including retail investors, provided that:</p> <p>(A) The distribution complies with all applicable requirements in the jurisdiction in which such distribution is being made;</p> <p>(B) The distribution does not restrict availability to investors having a minimum level of net worth or net investment assets; and</p> <p>(C) The issuer has filed or submitted, with the appropriate regulatory authority in such jurisdiction, offering disclosure documents that are publicly available.</p> | <p>(iii) 当セクションのパラグラフ(c)(1)(i)(C)(※持分権の販売の大部分が米国外で行われているとする条項)にいう「公募」とは、リテール投資家を含めたアメリカ合衆国外におけるあらゆる証券の配当が次の要件を満たしている場合をいう</p> <p>(A) 当該配当が発行国の法令上の規制に準拠して行われていること</p> <p>(B) その配当がなされることで投資家に帰属する最低水準の純資産の維持又は投資の継続に制限を与えるものではないこと</p> <p>(C) その発行者が発行国における適切な規制上の発行登録を行い、目論見書を公衆の縦覧に供していること</p>      |

#### (出所) 当社作成

また、ここでいう「大部分が米国外」の判断基準について、OCC、FRB、FDIC、SECが2013年12月10日に公表した「自己勘定取引、及びヘッジファンド・並びにプライベート・エクイティ・ファンドに対する特定の利害及び関係を持つことの禁止と規制(原題“Prohibitions and Restrictions on Proprietary Trading and Certain Interests In, and Relationships With, Hedge Funds and Private Equity Fund”)」P543には、

*The Agencies generally expect that an offering is made predominantly outside of the United States if 85 percent or more of the fund's interests are sold to investors that are not residents of the United States. (規制当局としては、米国の居住者ではない者に対して85%以上が販売されている場合、大部分が米国外であると一般的に考える)*

との考えが示されています。

## コラム：「リテール投資家」について

ボルカー・ルール上、外国の公募投信であって、次の3要件を満たすものは、「対象ファンド」(カバード・ファンド)の範囲に含まれません(連邦規則第12編第248.10条(c)(1))

- (A) 米国外で組成され、又は設立されていること (being organized or established outside of the United States;)
- (B) 発行者の所在国においてリテール投資家に持分権の販売が認められていること (being authorized to offer and sell ownership interests to retail investors in the issuer's home jurisdiction)
- (C) 持分権の販売は1回以上の公募により、その大部分が米国外で行われていること (sells ownership interests predominantly through one or more public offerings outside of the United States)

このうち、要件(B)(発行者の所在国においてリテール投資家に持分権の販売が認められていること)にいう「リテール投資家」(retail investors)については、連邦規則第12編第248条に明確な定義は設けられていません。これについて米FRBのウェブサイトに掲載されたQ&Aには、次のような記載があります。

| Q&A | 原文  | 仮訳   |
|-----|---|--|
| 14  | ... be authorized to offer and sell ownership interests to retail investors in the foreign public fund's home jurisdiction and must sell ownership interests predominantly in public offerings outside of the United States | 当該外国公募投信の発行地の法域で「リテール投資家」に販売することが許可されており、主にアメリカ合衆国の外で公募(P.O)の形で持分権が販売されていること |
| 5   | Foreign public funds that meet these qualifications are therefore treated the same as RICs for purposes of the definition of "covered fund" under the final rule  | 外国公募投信であってこれら(※A~C)の要件を満たしているものは最終規則上の目的に照らし、「RICs」(登録投資会社)と同様の取扱いを受ける       |

(出所) FRBウェブサイト「ボルカー・ルールについてのよくある質問(FAQ)」  
<http://www.federalreserve.gov/bankinforeg/volcker-rule/faq.htm>

つまり、ボルカー・ルール上、「リテール投資家」の定義は、「当該外国公募投信の発行地の法域」における定義と同様であると読めるものですが、「リテール投資家」そのものの定義は「ボルカー・ルール」の規則には記載されていません。

この点、ボルカー・ルール上は「1940年投資会社法(the Investment Company Act of 1940)」の「登録投資会社(a registered investment company, "RIC")」を明示的に対象ファンドから除外していますが(連邦規則第12編第248.10(c)(12))、その一方で同法上の「登録免除規定」を受ける投資会社(15 U.S. Code § 80a-3(c)(1)(7))については明示的に対象ファンドに加えています(連邦規則第12編第248.10条(b)(1)(i)など。欠き表参照)。

| #   | 法令原文(抜粋)  | 仮訳  |
|-----|---|---|
| (1) | Any issuer whose outstanding securities (other than short-term paper) are beneficially owned by not more than one hundred persons and which is not making and does not presently propose to make a public offering of its securities                                  | 既発の証券(短期証券を除く)の発行者であって、受益権を保有する者の数が100人を超えず、過去・現時点において当該証券の公募を行っていない者 |
| (7) | Any issuer, the outstanding securities of which are owned exclusively by persons who, at the time of acquisition of such securities, are qualified purchasers, and which is not making and does not at that time propose to make a public offering of such securities | 既発の証券が、その証券の取得時点において適格投資家のみによって保有され、過去・現時点において当該証券の公募を行っていない者         |

(出所) 15 U.S. Code § 80a-3(c)

つまり、ボルカー・ルール上、「対象ファンド」の定義には「リテール投資家」という文言が欠落しているにもかかわらず、「外国公募投信」部分にのみ「リテール投資家」と記載があるといえます。

### ⑥ SOTUS要件による例外

ボルカー・ルール上の「ファンド規制」とは、米国内に所在する銀行事業体に対して、「ヘッジ・ファンド」や「プライベート・エクイティ・ファンド」への投資等を原則として禁止するものです。この趣旨は、預金保険対象となっている銀行等の金融機関が「リスクの高い」投資を行うことを抑制するものであり（当社私見）、裏を返せば、「米国の銀行システムの安全性や健全性、金融システムの安定を危険にさらす（“to put the safety and soundness of the United States banking system or the stability of the financial system of the United States at risk”, Sec. 1023 of Dodd-Frank WSR act）」懸念がなければ、米国法に基づく規制を行う必要性はないはず（当社私見）。

そこで、ボルカー・ルール上、外国銀行が行う「完全に米国外」（Solely-Outside-Of-the-U.S., SOTUS）の活動ないし投資については、適用を除外する規定が置かれています（いわゆるSOTUS要件、図表6-2-8）。

■ 図表6-2-8 SOTUS要件（§248.13(b)）

| 「容認される米国外で行われる特定の対象ファンドの活動・投資」の4要件<br>Certain permitted covered fund activities and investments outside of the United States |   |
|--|---|
| 要件①  | その銀行事業体が米国法若しくは1以上の州の法律に準拠して設立されたものでないこと、又は米国法若しくは1以上の州の法律に準拠して設立された銀行事業体に直接的に若しくは間接的に支配されていないこと<br>The banking entity is not organized or directly or indirectly controlled by a banking entity that is organized under the laws of the United States or of one or more States |
| 要件②  | その銀行事業体による活動又は投資が銀行持株会社法（BHC Act）第4条(c)項(9)又は(13)に従っていること<br>The activity or investment by the banking entity is pursuant to paragraph (9) or (13) of section 4(c) of the BHC Act   |
| 要件③  | 持分権が米国の居住者に対し勧誘され、又は販売されたことがないこと<br>No ownership interest in the covered fund is offered for sale or sold to a resident of the United States  |
| 要件④  | その活動又は投資が完全にアメリカ合衆国の外で生じていること<br>The activity or investment occurs solely outside of the United States  |

（出所） 当社作成

ボルカー・ルール上の「銀行事業体」（例えば米国に支店を持つ邦銀）に該当していた場合であっても、SOTUS要件を充足していれば、対象ファンドへの投資活動等の禁止規定は適用されません。そのためには、図表6-2-8に示した4要件を満たす必要があります。このうち、「外国銀行要件」の詳細については、図表6-2-9の通りです。

■ 図表6-2-9 SOTUSの「要件②」（外国銀行の要件）について

|   |   |  |
|---|---|--|
| <b>連邦規則第12編第248.13条(b)(2)</b><br>本条(b)(1)(ii)にいう「当該銀行事業体の活動又は投資が銀行持株会社法第4条(c)(9)又は(13)に従っている場合」とは、次の全てを満たす場合をいう<br>(i) 当該活動又は投資が本条の規定に従って行われていること<br>(ii) 【以下の(A)か(B)であること】 |   | FRB規制Kとは：<br><b>外国銀行組織のノンバンク活動</b><br><br><b>連邦規則第12編第211.23条</b><br>(a) 当該外国銀行組織にとって全世界における事業（資産、収益、純利益等）の過半が銀行業であり、かつ、銀行事業の過半は米国外で行われていること<br>(c) 当該外国銀行組織の最終親会社の一部要件を満たさない場合の例外規定<br>(e) 上記(a)(c)の一部要件を満たさない場合の例外規定 |
| (A)   | その銀行事業体が外国銀行組織である場合、その銀行事業体はFRB規制K（連邦規則第12編第211.23条(a)、(c)、(e)のいずれかの要件）を満たしていること  |  |
| (B)   | その銀行事業体が外国銀行組織でない場合、その銀行事業体はアメリカ合衆国又は1以上の州の法律に従って設立されたものではなく、かつ、その銀行事業体は下記3要件のうち、少なくとも2つを満たしていること<br>① 当該銀行事業体の米国外で保有する総資産が米国内で保有する総資産を上回っていること<br>② 米国外の事業に起因する総収益が米国内の事業に起因する総収益を超過していること<br>③ 米国外の事業に起因する純利益が米国内の事業に起因する純利益を超過していること |  |

（出所） 当社作成

また、対象ファンドについては、その販売活動自体が「米国の居住者を対象としていない」等の要件を満たす必要があります（図表6-2-10）。

■ 図表 5-2-10 SOTUS の「要件③」(販売要件) について

■ 連邦規則第 12 編第 248.13 条(b)(3)

(3) An ownership interest in a covered fund is not offered for sale or sold to a resident of the United States for purposes of paragraph (b)(1)(iii) of this section only if it is sold or has been sold pursuant to an offering that does not target residents of the United States.

本条第(b)(1)(iii)にいう「対象ファンドの持分権が米国の居住者に対して販売されているか、又は販売された場合」とは、当該ファンドが販売(投資勧誘)の手続上、米国の居住者を対象として販売されている(is sold)か、又は販売された(has been sold)場合に限る。

■ 当局資料 “Prohibitions and Restrictions on Proprietary Trading and Certain Interests In, and Relationships With, Hedge Funds and Private Equity Fund” P 799 (抜粋)

Absent circumstances otherwise indicating a nexus with residents of the United States, the sponsor of a foreign fund would not be viewed as targeting U.S. residents for purposes of the foreign fund exemption if it conducts an offering directed to residents of one or more countries other than the United States; includes in the offering materials a prominent disclaimer that the securities are not being offered in the United States or to residents of the United States; and includes other reasonable procedures to restrict access to offering and subscription materials to persons that are not residents of the United States.

米国の居住者であることを示唆するような例外的な状況を除き、「外国ファンドの除外規定」の適用に当たって、外国ファンドのスポンサーは米国の居住者を対象としているものと推定されないためには、その投資勧誘が米国以外の一つ以上の国に向けられていることを明示する必要がある。これには次の項目が含まれる。

- 投資勧誘資料の中で、その証券が米国内で、あるいは米国の居住者に対して向けられたものではないとする明示的なディスクリーマーを設ける
- 投資勧誘上の合理的な手続を設ける(投資勧誘のアクセスを制限する、米国の居住者ではない者しか申し込みができない、等)

(出所) 当社作成

その上で、連邦規則は、当該ファンドの活動又は投資が「完全に米国外で行われている場合」について、対象ファンドのスポンサー等が米国外の者であることなどを求めています(図表 5-2-11)。

■ 図表 5-2-11 SOTUS の「要件④」について

Sec. 248.13 (b)(4)

本項で「活動又は投資が完全に米国外で行われている場合」とは、次の全てを満たす場合をいう  
An activity or investment occurs solely outside of the United States for purposes of paragraph (b)(1)(iv) of this section only if:

①対象ファンドのスポンサー等が米国外の者であること (Section 248.13(b)(4)(i))

The banking entity acting as sponsor, or engaging as principal in the acquisition or retention of an ownership interest in the covered fund, is not itself, and is not controlled directly or indirectly by, a banking entity that is located in the United States or organized under the laws of the United States or of any State

銀行事業体が対象ファンドの  
①スポンサーとなるか、  
②プリンシパル持分権を取得又は保持する場合、その銀行事業体自体が次の組織に該当しておらず、かつ、次の組織から直接的又は間接的な支配を受けていないこと

米国に所在する銀行事業体  
米国連邦法又は州法により設立された銀行事業体

②対象ファンドのスポンサー等が米国外に所在すること (Section 248.13(b)(4)(ii))

The banking entity (including relevant personnel) that makes the decision to acquire or retain the ownership interest or act as sponsor to the covered fund is not located in the United States or organized under the laws of the United States or of any State

①持分権の取得又は保持  
②スポンサーとして行動すること  
の意思決定を行う銀行事業体(関連する従業員を含む)が次の者ではないこと

米国に所在する者  
米国連邦法又は州法により設立された組織である者

③連結ベースで米国外に所在すること (Section 248.13(b)(4)(iii))

The investment or sponsorship, including any transaction arising from risk-mitigating hedging related to an ownership interest, is not accounted for as principal directly or indirectly on a consolidated basis by any branch or affiliate that is located in the United States or organized under the laws of the United States or of any State

• 投資又はスポンサーシップ  
• リスク削減ヘッジから生じるあらゆる取引を含む  
が、次の主体にとって、連結ベースでみて、直接的又は間接的に、「プリンシパル」とみなされるものではないこと

米国に所在する支店・関連会社  
米国連邦法又は州法により設立された支店・関連会社

④米国内からのファイナンスの禁止 (Section 248.13(b)(4)(iv))

No financing for the banking entity's ownership or sponsorship is provided, directly or indirectly, by any branch or affiliate that is located in the United States or organized under the laws of the United States or of any State.

その銀行事業体によるオーナーシップ又はスポンサーシップに対して、直接的・間接的を問わず、米国に所在する、又は米国連邦法若しくは州法により設立された支店・関連会社が融資を行ってはならない

(出所) 当社作成

### (3) 【補足】用語の定義

#### ① スポンサー

「スポンサー」について、連邦規則第 248.10 条(d)(9)は、次のように定義しています (図表 5-3-1)。

■ 図表 5-3-1 スポンサー (Sponsor) の定義

|   |   |
|---|---|
| <p>(9) <b>Sponsor</b> means, with respect to a covered fund:</p> <p>(i) To serve as a general partner, managing member, or trustee of a covered fund, or to serve as a commodity pool operator with respect to a covered fund as defined in (b)(1)(ii) of this section;</p> <p>(ii) In any manner to select or to control (or to have employees, officers, or directors, or agents who constitute) a majority of the directors, trustees, or management of a covered fund; or</p> <p>(iii) To share with a covered fund, for corporate, marketing, promotional, or other purposes, the same name or a variation of the same name.</p> | <p>(9) <b>スポンサー</b>とは、対象ファンドについて：</p> <p>(i) 対象ファンドのゼネラル・パートナー (GP)、業務執行社員、あるいは受託者であるか、又はコモディティ・プールのオペレーター (※) であること</p> <p>(ii) 方法の如何を問わず、取締役会、トラスティ、その他対象ファンドの運営主体の多数を選出又は支配 (又は役職員等を派遣) していること</p> <p>(iii) 対象ファンドとの間で、経営上、マーケティング上、販売活動上、その他の目的で、同一の名称若しくはその派生名称を利用していること</p> |
|---|---|

(出所) 連邦規則第 12 編第 248.10 条(d)(9)

#### ② 米国居住者

「米国居住者」とは、「SEC 規則 S 第 902(k)」にいう「US パーソン」(“U.S. person” as defined in rule 902(k) of the SEC's Regulation S (17 CFR 230.902(k))) をいうとされます (米連邦規則第 12 編第 248.10 条(d)(8))。

■ 図表 5-3-2 US パーソンの定義 (米連邦規則第 17 編第 230.902 条(k))

| #      | 原文   | 仮訳  |
|--------|--|---|
| (i)    | Any natural person resident in the United States   | ① 米国に居住する自然人  |
| (ii)   | Any partnership or corporation organized or incorporated under the laws of the United States   | ② 米国内の法律により設立されたパートナーシップ又は企業  |
| (iii)  | Any estate of which any executor or administrator is a U.S. person   | ③ US パーソンが執行又は運営を行う不動産  |
| (iv)   | Any trust of which any trustee is a U.S. person  | ④ US パーソンが受託者となる信託  |
| (v)    | Any agency or branch of a foreign entity located in the United States  | ⑤ 米国内に所在する外国事業体の代理人又は支店   |
| (vi)   | Any non-discretionary account or similar account (other than an estate or trust) held by a dealer or other fiduciary for the benefit or account of a U.S. person   | ⑥ 非一任勘定又は類似する口座 (但し不動産又は信託を除く) であって、US パーソンが受益者となる又は帰属させる目的でディーラーその他委託者が保有するもの  |
| (vii)  | Any discretionary account or similar account (other than an estate or trust) held by a dealer or other fiduciary organized, incorporated, or (if an individual) resident in the United States  | ⑦ 一任勘定又は類似する口座 (但し不動産又は信託を除く) であって、米国で組織され、設立され、又は (個人の場合は) 居住しているディーラー又は受託者が保有するもの   |
| (viii) | Any partnership or corporation if:<br>(A) Organized or incorporated under the laws of any foreign jurisdiction; and<br>(B) Formed by a U.S. person principally for the purpose of investing in securities not registered under the Act, unless it is organized or incorporated, and owned, by accredited investors (as defined in §230.501(a)) who are not natural persons, estates or trusts. | パートナーシップ又は法人のうち次の者<br>(A) 外国法に基づいて組織され、又は設立されており、かつ<br>(B) US パーソンが主体となって本法の登録を受けていない証券に投資する目的で設定されたもの、若しくは法人等でない場合、自然人、不動産、信託ではない公認投資家 |

(出所) [www.ecfr.gov](http://www.ecfr.gov)



## (4) ボルカー・ルールのおまひ

### ■ 図表 5-4-1 ボルカー・ルールとファンド投資の関係

| ファンドの区分   | 米国内の銀行事業体 | 外国銀行の米国支店 | 米国に支店を持つ邦銀本体 | 米国に支店を持たない邦銀 | 日本の国内基準行 |
|-----------|-----------|-----------|--------------|--------------|----------|
| 対象ファンド    | ×         | ×         | ×            | ○            | ○        |
| 登録投資会社    | ○         | ○         | ○            | ○            | ○        |
| 外国公募投信    | ○         | ○         | ○            | ○            | ○        |
| SOTUSファンド | ×         | ○         | ○            | ○            | ○        |

(出所) 当資料の議論を踏まえて当社作成。「×」はボルカー・ルール上の規制を受けるものであり、「○」は規制を受けない者であることを意味する

### ■ 図表 5-4-2 外国公募投信の要件

#### ● <発行要件>

- (A) 米国外で組成され、又は設立されていること
- (B) 発行者の所在国においてリテール投資家に持分権の販売が認められていること
- (C) 持分権の販売は1回以上の公募により、その大部分が米国外で行われていること

#### ● <「大部分が米国外」の意味>

The Agencies generally expect that an offering is made predominantly outside of the United States if 85 percent or more of the fund's interests are sold to investors that are not residents of the United States. (規制当局としては、米国の居住者ではない者に対して85%以上が販売されている場合、大部分が米国外であると一般的に考える)

(出所) Prohibitions and Restrictions on Proprietary Trading and Certain Interests In, and Relationships With, Hedge Funds and Private Equity Fund” P543等

### ■ 図表 5-4-3 SOTUSファンド

要件① その銀行事業体が米国法若しくは1以上の州の法律に準拠して設立されたものでないこと、又は米国法若しくは1以上の州の法律に準拠して設立された銀行事業体に直接的に若しくは間接的に支配されていないこと

要件② その銀行事業体による活動又は投資が銀行持株会社法(BHC Act)第4条(c)項(9)又は(13)に従っていること

要件③ 持分権が米国の居住者に対し勧誘され、又は販売されたことがないこと

要件④ その活動又は投資が完全にアメリカ合衆国の外で生じていること

(出所) 当社作成

# 7 規制動向と金融機関への影響

■ 図表7 当資料作成日時点における金融機関の実務への影響

| 項目           | 概要              | 対象  |                  |
|--------------|-----------------|---|------------------|
| バーゼルⅢテキスト    | 自己資本比率規制の強化     | 本邦では国際統一基準行が2013年3月期より、国内基準行が2014年3月期より、それぞれ新規規制の適用対象となっている   | 不要               |
|              | 資本バッファ          | 国際統一基準行においては「資本保全バッファ」「カウンター・シクリカル・バッファ」「G-SIBsバッファ」「D-SIBsバッファ」が求められる  | 国際行のみ            |
|              | レバレッジ規制         | 国際統一基準行等を対象に、2015年3月期より開示が求められている、リスクベースの自己資本比率に対する簡素なノンリスクベースの補完的指標。2018年より「第1の柱」に移行   | 国際行のみ            |
|              | LCR             | 国際統一基準行等を対象に、2015年3月期より算出が義務付けられている   | 国際行のみ            |
|              | NSFR            | 国際合意に基づき2017年12月ごろまでを目途として影響度調査を行い、2018年以降導入を予定しているもの。日本語版告示の公表時期、および国内基準行への適用等については現時点で不明。   | ?                |
| バーゼル規制の見直し全般 | 標準的手法(SA)の見直し   | 現在、BCBSによる市中協議文書段階にあるが、2014年の「第一次市中協議文書」と比べ、2015年の「第二次市中協議文書」は現在の実務慣行に近づき、新たに大幅なシステム投資等を必要とするものとならない見込み   | 国際・国内            |
|              | 内部格付手法(IRB)の見直し | 内部格付手法(IRB)採用行の「リスク・ウェイトのばらつき」を抑えるために、標準的手法に従った「資本フロアの導入」の議論に加え、IRB自体の見直しも提案されている   | 内部格付手法採用行        |
|              | IRRBB           | 銀行勘定における金利リスクは従来通り「第2の柱」に位置付けられる  | 国際・国内            |
|              | オペレーショナル・リスク    | 現行、3つの手法が準備されている「オペレーショナル・リスク」について、複数の方法を廃止し、あわせて「粗利益配分方式」に代えて「銀行のビジネス規模に応じた異なる掛け目」を用いる方法を導入する  | 国際・国内            |
|              | 証券化商品に関する規制     | バーゼルⅡの証券化エクスポージャーに関するフレームワークについて、外部格付への機械的な依存や証券化エクスポージャーに対する低すぎるリスク・ウェイト、クリフ効果などを緩和するもの。2018年からの導入を予定しているが日本語版告示の対応は未定   | 国際・国内            |
|              | マーケット・リスク規制     | 内部モデル方式・標準的方式を見直すもので、2019年1月以降の導入を予定。日本語版の告示の公表時期は不明。「一定金額未満の除外規定」が引き続き設けられる場合、日本国内の銀行等金融機関に対する影響は限定的   | 国際・国内            |
|              | SACCRモデルの導入     | 現行のデリバティブ等の信用リスク・アセットを計算する「カレント・エクスポージャー方式」(CEM)に代わり、信用リスク削減手法を内包した「標準的な」デリバティブ等の信用リスク・アセット計算手法。2017年より導入を予定しているが、今のところ日本語告示は公表されていない                                       | 国際・国内            |
| その他の論点       | G-SIBsへのTLAC規制  | 損失吸収力(外部TLAC)を2022年以降18%以上とするもの。日本の場合は金融庁が預金保険制度を「外部積立金」として2022年以降3.5%分の参入が認められる  | G-SIB            |
|              | デリバティブ取引の清算集中   | 店頭デリバティブ取引(金融商品取引法第2条第22項)のうち、一定方法で算出した清算集中対象デリバティブの想定元本の平均値が3000億円(※)を超えている金融商品取引業者・登録金融機関が当事者同士となるデリバティブについて清算集中義務がある(※2016年11月までは経過措置により1兆円以上とされ、信用金庫等については除外規定が設けられている) | 想定元本3000億円以上の銀行等 |
|              | 店頭デリバティブのマージン規制 | 一定の店頭デリバティブ取引の残高が3000億円を超える銀行等の金融機関が非清算店頭デリバティブ取引を他の金融商品取引業者と行う場合、少なくとも日次でデリバティブ取引に係る証拠金を授受し合うことを義務付けるもの。当初2015年12月1日以降の導入が予定されていたが、規制が9カ月延期されている                           | 想定元本3000億円以上の銀行等 |

(出所) 当社作成

× ㇏

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 金融規制動向 2016年7月版

### 当社について

商号 合同会社新宿経済研究所  
代表 岡本 修（代表社員社長・公認会計士）  
住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-31-7-804  
TEL 03-5341-4901  
FAX 03-5341-4960  
当社メールアドレス info@shinjuku-keizai.com

### 著者紹介

岡本 修（おかもと おさむ） 当社代表社員社長

#### 【略歴】

1998年 慶応義塾大学商学部卒業、国家公務員採用一種試験（経済職）合格  
2000年 中央青山監査法人入社、会計士補開業登録  
2002年 朝日監査法人（現・あずさ監査法人）入社 4年間、金融機関の証券取引法監査等に従事  
2004年 公認会計士開業登録  
2006年 みずほ証券株式会社入社 9年間、マーケット・セクションにて金融機関のソリューション営業に従事  
2015年 合同会社新宿経済研究所 設立（現在に至る）、株式会社 Stand by C 顧問に就任

#### 【主な著書】

『詳解バーゼルⅢによる新国際金融規制』（共著）中央経済社、2012年  
『金融機関のための金融商品会計ハンドブック』東洋経済新報社、2012年  
『国内行向けバーゼルⅢによる新金融規制の実務』（共著）中央経済社、2014年  
『外貨建投資・ヘッジ戦略の会計と税務』中央経済社、2015年

（雑誌寄稿）中央経済社「旬刊経理情報」

『外債投資戦略と会計上の問題点』2016/02/10 (No.1437)  
『利息にマイナスが適用された場合の経理処理を考える』2016/04/01 (No.1442)  
『マイナス金利の導入による債券を巡る会計処理への影響』2016/03/10 (No.1440)  
『外債投資・ヘッジ戦略と会計上の問題点』2016/06/10 (No.1448)

2016年7月28日 発行

著者 合同会社新宿経済研究所

©合同会社新宿経済研究所 無断複製を禁ずる